

の永き歲月に亘つて國家の政府を樹立し得ざる底の臆病なる政治家階級に向つて突進するものなり。生産階級の諸君は、ファシズムは國家の安寧秩序を維持し紀律を樹立せんとする以外他意なきものにして、亦進歩と繁榮を再現せしむ可き勢力を勃興せしめんとするものなることを知らざる可からず。田園に工場に勞働する者、鐵道に事務所に働く者は、ファシスト政府を恐怖するの要微塵もなし。彼等の正當なる權利は保護せらる可し。我等は敵軍と雖も武器を有せざる者に對しては、寛大なる可し。

ファシズムは伊太利國民の生活を束縛し、是に重荷を課するゴーチアンの結び目を、劔を抜き放つて斷ち切るなり。(中略)

伊太利全國のファシステイよ!

彼の精神と筋肉を羅馬人の如く伸長せよ! 我々は捷たざる可からず。我等は戰勝を博す可し。

伊太利萬歲! ファシズム萬歲!

四頭會議。

夜になつてから、クレモナ、アレスサンドリー、ボローニヤの流血的衝突、軍需工場と兵舎に

對する襲撃の報知が這入つて來た。私は非常に短かく、且反響が起る様に、宣言書を草案したのであつた。其れは伊太利國民の全部に感銘を與へた。我々の生活は突然熱烈な革命の雰圍氣の中に飛び込んだ。各都市に起つた鬪争の報知、其れは通信員の想像で時には誇張されてゐたが、何れにしても革命に劇的な色彩を與へた。國家の有識者は、此の運動の結果、國を治める事の出来る政府が遂に生れるだらうと確信してゐた。

敵側の首領、自由主義の頭目は、誰れ一人として姿を現さなかつた。皆んな慄え上つて穴の中に逃入してゐた。ファシズムの戦は結局勝利に歸すると云ふことを萬人が確然と感じてゐた。私は遠くから此れを感得することが出來た。空氣は其の氣分で充されてゐた。風は其れをさゝやいた。雨は其の情報をもたらして降りそゞいだ。土壤は其れを吸ひ込んだ。

私は黒シャツを着た。私は「伊太利國民新聞」の事務所に棚を廻らした。鉛色をした銀灰色の朝、ミランは新しい幻想的な外觀を呈した。活動が休止し、突然靜寂になつた。其の爲めに人々は歴史に去來する或る大事件が起る時だと云ふ感を深くした。

近衛兵は眉を擧めて市中を巡察してゐた。而して彼等の單調な足音は、殆んど猫の子一疋るない街區に不吉な反響をたてゝゐた。

交通機關の數は減じ、云ふに足りない程であつた。フアシステイが兵營と郵便局を強襲したので、一齊射撃が起つた。其の音は市中に内亂の峻惡な響きを傳へた。

私は防戦に必要な總ての物を以て、私の新聞の事務所を固めた。官憲が自分の威力を示さうと思ふならば、第一に「伊太利國民新聞」を強襲するに相違ないと想つた。實際、朝早く、私は霰彈砲の砲口を事務所と私に向けて列べてゐるのを見た。急射を交換した。私は銃に彈丸をこめ戸口を防禦する爲に下に降りて行つた。隣り近處では入口や窓に防禦を施し、防禦の用意をしてゐた。

砲撃中、小銃彈が私の耳の周圍をビュービュー云つて飛んだ。

近衛の隊長が、私と談合したいから休戦すると申し込んで來た。簡短な會話を換した結果、我々は近衛兵が二百メートルの遠方に退却すること、霰彈砲は通りの中央から撤去し、百メートルを隔てた十字路の處に置くと云ふ條件を承諾した。かゝる休戦條約を以て、十月二十八日はほのほのと明け初めた。

國會議員・元老院議員・ミランの政治家・ロンバルディア議會の有名な人々や最も信頼し得る人物の一團が——其の中には元老院議員コンテイ、クレスピ、代議士カピタニーも加つてゐた——

夜中來訪して、鬭争を罷めて呉れ、此の格闘は恐ろしい内亂の發端になるかも知れぬと私に云つた。彼等是一種の休戦、和解を中央政府としたらどうだと私に勧告された。多分内閣の危機は時局と國家を救ふだらうと彼等は云つた。

私は彼等が無智であるので、此の議會主義者達を笑ひを以て迎へた。

私は下の様な言葉で返答した。

「皆さん、一部の危機とか全部の危機とか云ふ小さな問題、又は一つの内閣を倒して他の内閣に更らせると云ふ様なつまらぬ問題ではないのです。私が企てゝゐる事はもつと廣汎な重大なものなのです。三年間私は小ぜりあひで沸騰してゐる大釜の中に生きて來ました。今度と云ふ今度は、全勝を博する迄武器を手ばなしますまい。政府のみならず伊太利の生活全部の方向を轉換せしめる時なのです。議會に於ける黨派戦と云ふ様な問題ではないのです、併し此處には一つの問題がある——我々伊太利人は自治的生活を營むことが出来るや否や、亦外國に對しても對内關係に於ても自己の弱點の奴隷となるや否や、我々は其れを知り度いのであります。戦ひは布告されました！我々は最後まで其れを推行するでせう。此等の通信を御覽ですか。鬭争は伊太利全土に燃え上つてゐる。青年は武器を持つて立ちました。私は首腦者であります、

追従する者ではありません。伊太利青年の立派な復活の此のページを、仲裁で汚す譯にはゆかない。其れは最後の章であると云ふことを私は諸君に申し上げます。其れは我國の傳統を充實せしむるにあるのです。妥協で死ぬことは出来ません。」

私は其れから一つの手紙を訪問者達に示した。其の手紙は早朝ガブリエル・ダヌンツイオ指令官から受け取つたものであつた。私は此れより先き、最も困苦して鬭争を開始した時代から我々に組してゐたフィユーメの救世者に、短かい手紙を書き送つた。其れはジャンピエトロ、ドウエト、エウジニノ・コセルスキ―諸將軍が傳達したのであつた。ダヌンツイオは時を移さず下の様な文句の返事を寄越した。

「私は一日うんと働いた後、今晚三人の使者に面會しました。」

度々中止してゐたが、此の書物の中で、一眼の男が沈黙考の末發見した眞理を究めました。」伊太利の青年は今其れを認め純潔な心を以て追つて來なければならぬと私は思ふ。

總ての誠實な勢力を集め、伊太利の爲に定めた大目的に向つて彼等を出發せしめねばならぬ。短氣でやきもきしてゐるのでなく、じつと落着いてゐれば、神の救ひは我々の處にやつて來るでせう。

貴下の使者は總ての曖昧な色彩から脱却した私の思想、私の企圖を貴方に御話しするでせう。」

國王陛下は私が今猶伊太利の忠實にして且熱心なる兵士であることを知つて居られる。

陛下を逆境から御救ひ申し上げなければならぬ。

勝利はバルラスの光かどやく眼であります。

バルラスを盲目にさせてはならない。

ガブリエル・ダヌンツイオ。」

私の處にやつて來たロンバルディアの政治家連中に、ダヌンツイオの此の手紙を讀んで聞かせてから、「譬ひ一兵卒しか手元に残らず、或は私丈けになつたとしても、私が自分の同志に略述した最後の決定的勝利を獲得する迄は、鬭争を止めない」と宣言して、私は彼等を追ひ還した。

論理にかなつた明白さを以て、亦しつかりして首尾一貫した理由を示したので、和解・妥協讓歩を提案してやつて來た人々も大に感銘したらしかつた。

彼の中の一人が、私と妥協するの餘地なしと云ふことを首相ファクタに報告する爲め、急遽出發したに相違ないと私は察した。

哀れむ可きファクタは自分の失敗の尻ぬぐひに忙がしく、此の眞の危機を救ふ方策もなく、其

の相談を掛ける人物もなかつた。此の時議會は閉會されて了つてゐた。何處に赴いて彼は危機を轉換し得るのだらうか？

總ての事件、最も重大な事件の渦中に在り乍ら何時も奇怪な滑稽な眞似をしてゐた。而して大變な悲劇が起らうとしてゐるにも拘らず、其の中でしきりにそんな眞似をやつてゐた。

伊太利自由黨の政府は、斷末魔に臨んで、最後の活動をやらうと思つてゐた。政府は國民に向つて次の様な文句の宣言文を發した。

「伊太利各縣に暴動蜂起せり、こは國家權力の推行を阻むものにして、其の性質より云へば國家を重大なる困却に陥没せしむるものなり。

政府は民心の靜謐に復歸せんことを望み、危機の平和的解決を確保せんが爲め最善の努力を盡して、協調を結ばんとせり。而して革命に直面するも、政府は有らゆる手段を盡し、總ての犠牲を顧みず以て社會の安寧秩序を保持する義務を有す。内閣責任者の辭表は提出濟なるも、市民の安寧、立憲制度の保持に對しては、其の任務を推行せんとす。

此の間に處し、國民は徒らなる喧騒に陥るを避け、政府が實行しつゝある社會保安の政策を信頼せざる可からず。

伊太利萬歲！ 國王陛下萬歲！

ファクタ以下諸大臣署名」

是れと同時に、各大臣は國內の事情に鑑みて、自分達の進退を宰相ファクタに一任した。ファクタは羅馬にある諸友の意見を求めた。其の結果、彼は戒嚴令を發布す可き詔勅を陛下に求めた。併し國王陛下は深大なる智慧を持つて居られたので、斷然御署名を拒絶された。

陛下は黒シャツ黨の革命に由つて、三年間の政黨の結末が付くと推察された。陛下はファシストの勝利に依つて平和の時期が到來すると云ふ事を悟つて居られた。

最も正統的な立憲形式を尊重し、國王陛下は憲法の條項に依る可きことをファクタに許可された。續いて辭職、任命、協議、通告、訓諭、其の他色々の事が起つた。此の時、緣起の悪い不愉快な運動をする者があつた。國家黨——其れはファシストの見解と非常に類似したものを持つてゐるが、政戦方法が違つてゐた——は密使を以て奇妙な要求を提出して來た。

國家黨は、其れが時局を解決する鍵だと信じてゐた。此の團體の典型的代表者であつたサランドラは、自己を犠牲に供し、自分の背中に權力の十字架を負ふと云ふ意圖を持つてゐた。此れはファシステイの援助を受けると云ふことを前提にしてゐた。私は此の解決方法に斷然反抗した。

其れは妥協と誤膠を反復するにすぎないからである。ファシズムは武装をしてゐた。其れは國民生活の中心を支配してゐた。其れは明確な目的を持つてゐた。其れは超議會的進路を辿つてゐた。上述の様な中途半端な處置を執れば、ファシズムは勝利を得ることが出来ない。國家黨とファシズムとの間に聯盟を作らうと云ふ仲介者に對する私の返答はかくの如きものであつた。妥協を排す！

鬭争は私が明記した目標に向つて前進して行つた。其の時代の革命事件を全國的に亘つて描出すると云ふことは自叙傳のページに限りがあるからよく爲し能はざる處である。一時間が経過する毎に、伊太利政局を巧く支配し得ると云ふ感じが益々強くなつた。敵手はあはてふためき蜘蛛の子の様に四散し、一言も發することが出来ない。ファシステイは隊伍堂々、既に羅馬の諸城門に肉迫してゐた。而して私が軍列の先頭に立つて首府に侵入するのを今か今かと待ちあぐんでゐた。

二十九日の午後、私は國王陛下の爲に羅馬に來れと云ふ至急電話に接した。陛下の侍從長、チツタデイニー將軍は、國王陛下が時局を御覽の結果、貴下に組閣を委任されるから何卒羅馬に來れと云ふことを私に告げられた。私はチツタデイニー將軍の意を謝すると同時に電報で其れと同じ意味の事を申し越され度いと懇望した。電話の話は往々にして眞實でない場合があるからである。チツタデイニー將軍は最初宮中の規則にない事であるから私の要求を承認することは出来ぬと云つてゐたが、異常な時局のことを考慮した結果、同じ意味の召電を私に寄越すのを承知した。二三時間すると、急電が到達した。其れは個人の資格で書いてあつた。

其れは斯うであつた。

「ミランなるムツソリーニ。

國王陛下は直ちに貴下が羅馬に來らんことを命ぜらる。陛下は内閣組織の大任を貴下に與へられんとす。

チツタデイニー將軍」

此れは未だ勝利ではなかつた、併し一大進轉であつた。私はベルージアの革命本部と、ミランにゐる黒シャツ黨諸星に其れを直接傳達した。私は「伊太利國民新聞」の號外で、私が受領した命令の報知を天下に知らせた。

私は神経が極度に緊張してゐた。幾晩も幾晩も私は眠らずに命令を發し、ファシステイの軍隊を檢閲し、ファシズムの武士道を守つて無意味な戦争をさせない様に努めてゐた。

私は重大なる任務に就かんとしてゐるのであつた。私は自分の責務と目的を見失つてはならない。私は全力を振起した。私は戦死者の記憶を呼び起した。私は神護を祈願した。私は自分が直面してゐる大事業を助けてくれる誠實なる人々を求めた。

一九二二年十月三十一日、私は「伊太利國民新聞」の支配者たる地位を離れ、而して自分の戰鬥用具であつた新聞を兄のアルナルドに委託した。十一月一日の新聞に、私は次の如き宣言を公表した。

「今後『伊太利國民新聞』の支配者は、アルナルド・ムツソリーニに委任す。

此の新聞を維持する爲に、亦我祖國を愛する爲に、熱誠をこめて我と勞を共にしたる編輯者共勞者、通信員、事務員、従業員に對し、我は兄弟に等しき愛を捧げて感謝の意を表す。

其

羅馬にて。一九二二年十月三十日。

ムツソリーニ

我々が勝利の變ることなき有力な要素であつた此の新聞と訣別するのは一つの悲哀であつた。此處に一言附言して置かねばならぬのは、其れ以來、兄のアルナルドが少しも尊嚴を傷付けず、手腕を縦横に揮つて、主筆たるの職責を盡し得たことである。

私は兄に此の新聞をまかせてから、羅馬に向つて出發した。國王陛下の御召をけ享て、羅馬に赴むのであるから、特別列車を仕立て、やらうと熱心に云つて呉れる者があつたが、普通列車の一室で充分だと私は答へた。汽車も石炭も浪費してはならない！これは眞の政府者の最初の試練である。何れにしても私は我黒シャツ黨の先頭に立つて羅馬に入城することが出来るのであつた。

私が出發したと云ふ消息は、全伊太利に亘つて鳴り響いた。汽車が留る停車場毎に、降りそぐ雨の中を、萬歳萬歳と叫ぶファシステイと群衆は肩々相摩してゐた。

ミランを後にするのは苦痛であつた。此の市は十年間に亘る私の家であつた。私にとつてミランは大いに満足す可き處であつた。有らゆる困難に逢着した時、其れは私を援けて呉れた。ミランはファシズム實戰隊の洗禮を行つて呉れた。此の市は歴史的政戰の舞臺であつた。今私は運命と重大なる任務を帯びて、ミランを去らんとしてゐるのである。ミランの市民は悉く私が出發して行くのを知つてゐた、而して勝利の表象である門出に欣快を覺え乍らも、亦一味悲哀の感なき能はずであつた。

然し是れは感傷的な氣分に浸つてゐる時ではなかつた。其れは急速に判つきりとした決心をき

める時であつた。家族の者に接吻し別れの詞を交はしてから、私は多数の名あるミラン市民に訣別し、やがて私は出發した。夜の帳を駈け抜け乍ら、私は色々と自問自答し、自分の精神を新たにし、残して來た友人の聲の響に耳を傾け、又將來實現の可能性ある打ち開けた地平線を凝つと見つめた。

此の旅行中や其の當時の紛々たる挿話は、ことさらに取り立てゝ云ふ必要はない。汽車は私を運んでファシステイの群がる中に突入した。私はサンタ・マリヤで羅馬を眺めた。私は我黨の軍隊を檢閲した。私は羅馬に這入る入城式を定めた。私は四頭會議と官憲との關係を定めた。

私の姿を見て、只さえ熱狂してゐる者はいやが上に熱狂した。私は此等青年の眼底に、勝を誇る理想の神聖な微笑みを讀むだ、かゝる援護者を味方に持つてゐる私は、必要があれば、下等な伊太利の支配階級のみならず、如何なる種類、如何なる民族の敵とも鋒を交ゆるを辭せぬと云ふ氣持になつた。

羅馬では筆紙に盡せぬ歓迎が私を待つてゐた。私は遅延することを欲しなかつた。私は政友と面會する前に、自動車を驅つて王宮に伺候した。私は黒シャツを着てゐた。私は形式的儀禮を抜きにして國王陛下の御前に案内された。陛下は非常に御懇篤な面持ちで御引見下だされたと云ふ

以上臣下として發表する事は出来ぬ。私は計畫を悉く披瀝して言上した、亦伊太利を如何にして治めるかと云ふ私の考へを明白にした。私は陛下の御賛同を得た。私はサヴォイホテルに宿をとり、仕事を初めた。私は羅馬にファシストの義勇兵を入城せしめ、國王陛下の御前に整列させると云ふことに就き、正規の陸軍の指令官と第一番に相談をした。私は詳細な命令を下した。十萬の黒シャツ黨は國王陛下の御前を隊伍整々と行進した。陛下はファシスト伊太利の忠誠ぶりを見そなはされた！

私は勝利の榮冠を戴いて羅馬にあつた！ 私は直ちに凡ての不必要な示威運動を禁止した。ファシスト總指令官の許可なくして、一つの行列をやつてもいけないと私は命令した。其れは私が考へてゐる制度を推行する上に於て、最初から一糸でも紀律の觀念を亂させまいとしたからであつた。

陸軍の將校は私の爲に戰勝運動をやらうと謂つたが、私が其れを抑制したので失望した。軍隊は總ての政黨から超越してゐなければならぬと私は恒に考へてゐた。私の意見を以てすれば、軍隊は絶対紀律を守らなければならぬ。軍隊は確固不拔の意志を以て、國境と傳統的權利を守るだけが任務である。軍隊は侵す可からざる處の制度である。軍隊は完全無缺でなければならぬ。

當時、他の一層複雑な問題が横たはつてゐた。私は新内閣を組織する任務がある丈けで羅馬に
ゐたのではない。私は伊太利國民の生活を根底から更新し再建しようと堅く決心してゐた。

羅馬に接して自分の獻身的な氣持は益々鋭くなつた。羅馬は數世期に亘つて帝國の軍隊が城下
で敗北するのを觀た。羅馬は自國の力が衰退して行く一方、世界の文明と思想の波濤が昂まつて
來るのを眺めた。羅馬は國民軍の首領として私を歓迎して呉れた。羅馬は一政黨、一團體の代表
者としてではなく、大なる信念、全國民の代表者として私を抱擁して呉れた。

私は政黨者として、又政府者としての自分の行動を長く考案して來た。私は晝間歩いてゐる時
でも、夜眠つてゐる時でも是等の考へを始終胸中に藏してゐた。私は勝つた、而して猶一層捷つ
ことが出來た。私は敵を壁に釘付けにすることが出來た。其れは比喩でなく、左様しようと思へ
ば實際に實現することも出來た——其れはファシズムを惡口讒謗した敵であり、又戦時に伊太利
に裏切つた様に平時でも伊太利に弓を引かんとするので、私が嫌惡した處の敵である。

周圍の事情は悲劇を胚胎してゐた。私は三十萬の黒シャツ黨を動員した。彼等は私の命令一
下を待つてゐた。彼等は色々な目的に使ふことが出來た。私は首府で六萬の武装隊が何時でも出動
出來るやうにさして置いた。羅馬への進撃は、悲劇の枯草に火を放つかも知れなかつた。古往今

來革命の例に倣へば、多くの血が流されるかも知れなかつた。

私は獨裁權を宣言することが出來たらう。私は佛蘭西で國民公會が組織され執政内閣が出來た
例を學び、ファシステイのみの獨裁内閣を作ることが出來たらう。けれどもファシスト革命は一
種獨特の特徴をもつてゐた。其れは歴史上先例がない革命であつた。其處で、私は出來得る丈け
短時間のうちに、動員を解かうと思つた。

私は自分の双肩に議會を負ふてゐると云ふことを忘れなかつた。其の議會たるや險惡な思想の
代議士で固められ、何時でも私を馬蹄にかけようと用意怠りなく、古き陰謀の傳統に慣れ、怨恨
憎惡の塊で、唯恐怖の爲めに縮み上つてゐる丈けのことであつた。亦周章狼狽してゐる元老院が
あつた。私は此の元老院から尊敬を受けることは出來るが、熱心な共同を期待する事は出來な
かつた。國王陛下は、私が憲法の條項を破壊せず、如何なる方策を執るか云ふことを注視され
て居られた。

法王は事の成り行きを憂慮して居た。諸外國は戰鬪を交へずして革命が成就したとすれば、其
の革命の本體はどんなものか疑惑の眼を放つてゐた。外國銀行は新しい電報が來るのを心配して
待つてゐた。爲替は動搖し、信用貸付は未だ氣迷ひの形であつた、而して狀況が明らかになるの

を待つてゐた。其處で新制度が安定したいと云ふ感情を與へるのが焼眉の急であつた。

私は何もかも悉皆を一見し、再見し、豫見しなければならなかつた。

私は數夜全く枕に頭を付けなかつた。數夜を徹して東奔西走、左視右考した。私の政府が出来て二十四時間経たぬ内に政策方法は決まつた。

革命本來の性質として、もう一つの問題が起つて來た。革命が起れば普通大衆と此れを率ゆる首腦者がある、併し此の外に二種類の人間——冒險家と陰鬱なインテリゲンチヤ——がある。此の二種類の人間は、綜合的に云へば、革命の苦行者と呼び得るだらう。革命が終了すると、偉大なる歴史的社會的實在の單なる本能に動かされてゐた民衆は、平和に日常の活動に戻るものである。是れが新制度を培ふ基礎である。自覺あり私心なき指導者は必要なる支配者の地位に着くのである。然し苦行者と冒險者は本當の重荷である。苦行者は一晚の中に完全な人間を作り出さうと望むのである。革命は人間の本性を更へるものでないと云ふことが、彼等には理解出來ない。ユートピアの幻想に甘酔してゐる苦行者は足ると云ふことを知らない。彼等は前進する爲に無我無中にならなければならぬ時、懷疑思想に捉はれ、貴重な時間と他人の精力を浪費する。革命を成功させた冒險者達は、革命の運命と自己の運命を同一視してゐる。であるから彼等は革命が成

功すれば私的利益も満足させることが出來ると思ひ込んでゐる。而して彼等の望みがかなはなかつた場合には、怨恨の情を惹起し、極端危険な手段を謳歌するやうになる。

其處で私は苦行者、冒險家が打ち壊さうとするファシストの勝利を防がなければならぬ境遇になつた。然しファシスト革命は他の革命と相違してゐたので、冒險者は直ちに其の中に影を没して了つた。

併し私はかゝる重大な時機に際してゐるのであるから、自分の一舉手一投足に對して、間斷なき責任を感じてゐた。

第一に混亂せる時間に處し、私は國家の秩序を恢復すると共に、新政府を樹立せんとした。直ちに命令を發した。あつちこつちに少しの騒ぎが起つた丈けであつた。かゝる状態にあつては、其れは避く可からざることであつた。私はファクタを護衛する必要があると思つた、而して私は戦功に依つて勳章を貰つてゐる十人の黒シマツ黨を呼び寄せ、ファクタの故郷であるピネロまでファクタを護衛して行く様に命じた。彼等は其の任務を誓約した。何人と雖もファクタの髮一本にも觸れてはならぬ、亦彼を愚弄し嘲笑してはならぬ」と云ふのが命令であつた。ファクタは祖國の爲に彼の獨り息子を捧げた、而して其の息子は戦争中飛行機の不祥事で死亡した。ファクタ

は此の事のみならず他の事で尊敬に價する人であつた。

私は反對黨の頭目に仇討の刃を向けてはならぬと禁じた。私は非常な權力を揮つて、最も狂暴な敵でも、是れを破壊するのを廻避した。其れは口先丈けでなく、實際に行つた。私は彼等の生命を救つた。其れと同時に、數時間のうちに、私は新しき内閣を組織した。前述の如く、私はフアシスト獨裁の考へを棄てた。と云ふのは私は一政黨が私慾的にやるのではないと云ふ印象を國民に與へたいからであつた。四方八方に氣を配つてから、私は國家主義的色彩を帯びた内閣を組織せんと決心した。

併し、是れは外套を脱し得ざる伊太利政黨と政治家に對する私の寛大なる最後の處置であつた。

新内閣の大臣次官中、十五名はフアシステイ、三名は國家黨、三名は右翼自由黨、六名は國民黨、三名は社會民主黨に屬してゐた。右翼自由黨がフアシスト革命の結果を利用し、自黨の利益を占めんと奇妙な策謀を廻らしたのは、つい最近のことであつたけれども、私は其の黨派に對して寛容な態度を持してゐた。國民黨、社會民主黨の中から、私は或る人々を拔擢した。其の人々は國家的精神を守ること、及び國民主義者や社會主義者等と相結んで陰謀を企てぬと云ふ誓約を立てた。

私は總理大臣の職を奉ずると共に、内務大臣、外務大臣の仕事も自分がやることにした。私は陸軍大臣の椅子をアルマンド・ディアズに與へ、而して國家の名譽ある軍隊を彼の管理の下に立たしめる可く約した。タオン・デ・レヴェル提督を海軍大臣に、フェデルゾーニを殖民大臣とした。

總閣員は下の如くであつた。

總理大臣	ベニート・ムツソリーニ (代議士) ファシトス。
内務大臣	ムツソリーニ兼任。
外務大臣	ムツソリーニ兼任。
陸軍大臣	エルマンド・ディアズ (將軍)
海軍大臣	バオロ・タオン・デ・レヴェル (提督) 元老院議員
殖民大臣	ルイジ・フェデルゾーニ (代議士) 國家黨。
司法大臣	アルド・オヴィリヨオ (代議士) ファシスト。
財務大臣	アルベルト・デ・ステエファニー (代議士) ファシスト。

大藏大臣 ヴイチエンゾ・タンゴルラ。(代議士) 國民黨。

文部大臣 ジオヴァンニー・ジセンチイレ(教授) 右翼自由黨。

交通大臣 ガブリエルロ・カルナツザー(代議士) 自主黨。

農業大臣 ジュゼツペ・デカピタニ(代議士) 右翼自由黨。

商工大臣 テオフィロ・ロツシー(元老院議員) 民主黨。

労働大臣 ステファノ・カヴァツゾーニ(代議士) 國民黨。

逓信大臣 ジオヴァンニー・コロナナ・デイ

新諸縣大臣 ジオヴァンニー・ジユリアンティ(代議士) ファシスト

組閣が完了した時、私は次の様な復員命令書をかき、四頭會議が其れに署名した。

「全伊太利のファシステイ！」

我等の運動は勝利の榮冠を得たり。我黨首は内治外交に關する國家の政治的權能を掌握せり。

我政府は國內の平和を慮り、國家の大義名分に反せざる他黨の人々は敢へて是れを排除せず。

伊太利のファシズムは一層偉大なる勝利を得可き、聰明と慧智を有す。

ファシステイ！

實戰を司る最高四頭會議は、其の實權を黨の幹部に返還するに臨み、諸君の感嘆す可き勇氣と紀律に對し、絶大の感謝の念を捧ぐ。諸君が國家の將來に向つて功績を樹てたることを確證す。

伊太利歴史に新時代を劃す可き大試練を享くる爲に集れる時と同じく、整然たる紀律の下に解散せよ。伊太利は今や一層繁榮せる時代に到達す可く平和裡に働くの必要あり、其處に於てか諸君は平常の仕事に返還せざる可からず。(中略)

伊太利萬歳！ ファシズム萬歳！

四頭會議

それから私はダヌンツイオに打電した、而して私は我王國の知事、及其れ以下の官憲に廻章を分配した。

ダヌンツイオに打つた電報に曰く。

「我國家の秩序と國內の平和を恢復す可き困難なる事業を了せるを以て、余は貴下及國家の將來に對して祝賀の念を捧ぐ。國家の爲めに失なはれたる精神を奪還したるファシストの勇邁なる青年は、勝利を欺瞞するが如きことはあらざる可し。

官憲に送つた廻章の本文は次掲の如し。

「國王陛下の御親任を拜命し、今日より余は國家政府の監督權を執るに至れり。余は最高官吏より最下級官吏に至る迄、悉く慧智を以て自己の本分を盡し、又國家の最高利益を念慮して事に當られんことを希望す。

余は自から其の模範を示例す可し。

總理大臣兼内務大臣

ムツソリーニ。」

私のやつたことと私の計畫を報告する爲に、十一月十六日を期し、私は議會を召集した。其れは未曾有の會合であつた。議事堂は溢れるばかりの人であつた。議員は悉く出席した。私の宣言は簡短、明瞭、元氣旺盛であつた。私は一つの誤解も残さなかつた。私は革命の權利を説述した。ファシズムの意志に由り、革命は適法の範圍を越えなかつたと云ふ事實を指摘し、聽衆の注意を促した。

「私は議會の扉を釘付けにし、純然たるファシスト政府を作ることが出来るのである。私はさ

うなし得るのであります。併し——少なくとも暫くの間——私はさうしない。

私は總ての同勞者に向つて感謝した。

私は過去の内閣が恒に提示する様な有りふれた綱領は一つとして提出しなかつた。其れは紙上で國家の問題を解決するに過ぎなかつたからである。私は實行の意志を誓つた。不用な雄辯で時を浪費せず、事を實行するのだと云つた。外交政策の分野では、私は尊嚴を保ち國家利益を損なはざる底の政策を推行すると云ふ意嚮を明白に表明した。

ファシズムは如何なる方法に據つて緊急問題を探查し解決したか、又政府が有する將來の大綱を如何にして定めたかと云ふ事に就て、私は重大なる宣言をした。

一八七〇年以來、モンテチオロの議事堂でかゝる元氣な而して明瞭な言葉を放つた者はないと私は信ずる。私の體内に深く宿る熱情の爲に一言一句は燃え上つた。此の演説の中には、私自身の智識と精神を傾けて討議し來つた新舊思想の精華が盛られてゐた。數名の國會議員は私が放つた非難の矢にあたり、怨を飲んで引き退つた。併し議會に於ける私の政見發表は、伊太利全國民から肯定された。取るに足らぬ勢力を擁する政黨及政治家の集まつてゐるふるびた議事堂は念頭に無かつた。私は全國民を相手にして喋つたのである。國民は私の言葉に耳を傾け、又私を了解

して呉れた！

此の瞬間から、ファシストの活動が益々擴大されるに従つて、伊太利の新しき歴史の夜が明けると云ふことを、私は自分の政治的本能に訴へて悟つた。

おそらく、文明の新しき路が開かれる黎明……………

十 政府者としての五年間

私の革命方法と黒シャツ黨の勢力が増大した結果、私は非常な責任を双肩に荷ふことになつた。既に私が指示した如く、私の仕事は複雑で容易でなかつた。私の仕事には絶大な觀察力が必要であつた。私の仕事は引續いて益々責任が重くなつた。

全然新しい生活が私に初つた。其れを物語る爲めには、私は世に有りふれた自叙傳の形式を捨てなければならぬ。我政府の活動を全有機體として考へなければならぬ。個性は消滅する。其のかはりに私の人格が表現される。往々にして私は具體的性格の行爲のみだと思ふことさえある。其れは一人の人間に關することではない。其れは多數の人間に關することである。其れは全

國民の利害にかゝはる事である。故に一人の人間の生活は、全體の中に没入する。

國家の中央權力が地を拂つて消滅して仕舞つてゐる今日、私は政府の方針を定める必要があつた。自由黨の大藏大臣ペアノが概説した數字、六十萬リラの歳入缺損と云ふのが、伊太利の財政状態であつた。個々の國民は一時の彌縫策で生活してゐた。相次ぐ通貨の膨脹と紙幣増發の爲めに、人々は過去に於ける好景氣の幻想を追ふてゐた。其の爲に安泰であると云ふ妄想を抱いてゐた。嚴格なるファシストの財政政策に直面した時、總ての此等の罪は償はれなければならなかつた。

外國に於ける我國の政治的名聲は加速度をもつて低下した。伊太利は無秩序な國家で、繁榮することも生産することも出来ぬと判斷されてゐた。混亂状態が慢性病になつたので、我々よりも國歩安全な國々は、同情を表して呉れた。併し其れよりも悪いのは、我多くの敵國が段々高慢になつて來ることであつた。

伊太利の學校制度は複雑で、大學、中學、小學の各校に別れてゐたが、其の精力を純然たる抽象的、理想的機能にのみ傾注してゐた。其れは眞の社會、近代的社會、國民生活の根本問題から遠ざかるばかりであつた。其れは國民の本分を指導する點から見て無能力であつた。學校と教會

とは恒に國民向上の道を指示す可きであるのに、其の本分を忘れてゐた。

國家機構内には、奇妙な憎惡す可き地方政治團體が存在してゐた。其れは國民の一致共同を危ぶからしめない迄も、兎角問題を惹き起した。政府は改良、福祉に名を借り、眞の必要からでなく一地方人或は其の地方の歡心を得んとして、諸種の施設を行つた。かかる卑屈な政治政策——選舉戰術を揮つて——に由り、大藏省は利益を得てゐた。

我々は敵に對して寛大な態度を持してゐたので、ファシスト軍團は未だ解體しなかつた。此のファシスト部隊は、國民の生活が新しい状態に這入つて來ると、社會の秩序、適法を脅かす危険があつた。陸海軍は國民生活の大問題と無關係であつた。實際是れは色々な點で良いことであつたが、陸海軍を無視するとなると其れは面白くない。飛行隊は亂脈を極めてゐた。其れに新勢力を注入するのは容易な術でなかつた。飛行と云ふことを考へた場合、ニツテイが軍用飛行機のみならず民間飛行機にまで飛行するのを禁止した事實を忘れてはならぬ。彼は飛行隊を解散し、發動機と飛行機を賣拂へと命令した。かゝる命令は實際に國家を絞殺しようと思はなくつても、結果から見れば國家を豫謀して殺害することになる。

兎角する内に反ファシズムの手足が、上下の差別なく悉く羅馬に集つて來た。黒シヤツ黨の革命が起り、私が政權を擲つた時、政黨は最初吃驚してしまつた、然し其れが段々復活し出した。モンテチトリオの議會の廊下で不鮮明な空氣を醸し、其の中で政權を伸長しようと思ふ策略を廻す丈けの勇氣が彼等に出て來た。伊太利の新聞は、大部分古い政黨と、從來の政治顧客に好意を持つてゐた。

監督權の根本要素を阻害すること無く、以て總ての國民生活を改造する必要があつた。經濟・學校・伊太利軍隊を整頓しなければならなかつた。官僚主義を撓め、公共事業を改善するの要があつた。舊政黨の殘壘から放つ批判の聲に、侵蝕されないやうにする用意が必要であつた。私は外部からの攻撃と闘はねばならなかつた。私はファシズムを改造してもつと立派なものにする必要を感じた。私は敵を分裂させ、此れを打倒するの要を認めた。私は色々な點で伊太利政界の慣習を改めざる可からずと云ふ考へを持つてゐた。

國境を越えて外國に移住してゐる一千萬の伊太利人を等閑に附して置く譯にゆかぬ。

我々は我國境地帯に對して再び信念を固めなければならなかつた。我々は南部地方に近代的改良を施し、刺戟を與へるの要があつた。

問題と心配は數限りもなかつた。私は萬事萬端を採決しなければならぬ地位に置かれてゐた。

而して新聞紙上で、自分の筆端で、會合の席上で、議會壇上の演説で發言し支持した政治的公準を實行する丈の堅固な意志を、私は持つてゐた。如何なる烈風に吹きまくられても、是れに屈服せず、敢然として立ち、主義主張を放棄しないと云ふことは、力の問題ばかりではない、意志の問題であつた。

自分の新聞の運命に就て、煩らばしい一切の事は切り離して仕舞つた。少しでも私的な性質を帯びた事は何んでもかんでもやらぬことにした。

私は徹頭徹尾、完全に、排他的に、自分と云ふものを國家再興事業に献けた。

今日でも夫れに變りはない。私は單純な誠實なる國家の奴僕たることを望んでゐる。私は一政黨の首領であるが、併し強力な政府の立派な首班たる事を第一義としてゐる。私は人生の淺薄なる慰樂を棄て、惜しむ處はない。只運動だけは例外である。運動は自分の肉體を活發にすると共に、複雑な仕事のあいまを利用して健康を恢復し幸福を取戻して呉れる。此の六年間——公の宴會以外——貴族の客間やカフェーの敷居を決して跨いだことはない。芝居行きは夜間の仕事の重要な時間を曾て私から奪つたことがあるので、私は全く劇場を覗かうとしない。

私は有らゆる運動を好愛する、私は自信を以て自動車を運轉する。私は大速度で疾走した其れ

には自分の友達のみならず、老巧な運轉手まで目をむいた。私は飛行機が好きだ。私が飛行した數は數へ切れない。

私が政權を獲得する爲に多忙を極めてゐた當時でも、飛行士の免狀を得る爲めには、其の教練を享ける時間を犠牲にした。私は五十メートルの高處から墜落した事があつたが、其の爲に以後飛行を中止するやうなことはなかつた。自動車を運轉すると、自分は新しい偉大な力が加はるかに思つた。立派な栗毛の馬に乗るのは、私にとつて一つの愉快な休養であつた。擊劍は私の好む處で、非常に身體の爲に良かった。而して絶大な満足を感じた。私はバイオリンを弾き、靜かな音樂の時間を樂んだ。ダンテの如き大詩人、プラトンの様な大哲學者に對しては、詩の時、靜思默想の時を求めた。

其れ以外の娛樂を、私は樂まない。私は酒杯を手にせず、煙草を好まず、而して骨牌や其の他の勝負事は嫌ひだ。勝負に熱狂して、時間と黃白、時としては生命其の物さえも失ふ者を私は憐れむ。

山海の珍味など、私は敢て顧慮しない。私は其れを感じない。殊に此處五年間、私の食事は貧乏人のその様に簡素である。私の生活の何の時間を抜き出して見ても、私を導いてゐるのは精

神的要素である。金力は私に呼び掛けない。私が目指す唯一の物は、人生と文明の偉大なる目的最高の利益、祖國に對する眞誠深大なる渴仰である。私は自分の力と信念をしつかり握つてゐた。其處で私は一步も讓歩を許さず、如何なる妥協にも應じようとしなかつた。私は敵に對して一視も呉れず放つて置いた。彼等には彼等一流の政治的な夢を勝手に見させて置いた。彼等は雄辯を振り、煽動政治家の面目を發揮してゐたが、私は爲すが儘にさせて手を觸れなかつた。

伊太利は何を必要とするか？ 復讐家を必要とするのである！ 伊太利の政治的精神的復活には立派な解釋者を必要とするのであつた。毒を持つた傷口を焼き切り、力を涵養し、急流に逆行する必要があつた。慢性になりかゝつてゐる病患を取り除くのが第一だつた。政治の腐敗を抑制するのが急務であつた。國民生活の脈管に伊太利民族の新しい、強健なるリズムを吹き込まねばならなかつた。

不必要な主觀的な叙述を並べ立てゝゐるよりも、行爲と活動が私の眞の自叙傳——一九二二年乃至一九二七年——を描き出して呉れてゐる。

私は不安の氣持に捉らはれたことは瞬時たりともなかつた。幸にして往々政治家には禍する失望と云ふことを私は知らなかつた。自分の威信はどうでもかまはぬが、自分の身よりも大切な國家の威信が第一だと云ふことを私は知つてゐた。

私は伊太利人の性格を改善したいと念願した。

一九二二年十一月十六日、議會で演説をした後、私は自分の宣言に對する親任を問ふた處が、三百六票對百十六票で私の勝利に歸した。私は絶對權を要求して、容易に其れを得たのである。

私は大赦令を發した。其の爲に平和の空氣が漲るに至つた。私は武装してゐるファシストの軍隊問題を解決しなければならなかつた。私は我黨の兵士、實戰部隊から尊敬されてゐた。然しファシズムが政權を掌握した今日、此等の軍隊を存続せしめるのは望ましくなかつた。

私に向つて深き盲目絶對の赤誠を捧けてゐる此等の團體を、突然廢止して仕舞ふことは出来なかつた。本能と確信の上から見て、彼等は力や勇氣にばかり支配されてゐたのではない、政治道徳に依つても動いてゐたのである。危険は全く退散したと云ふ譯ではないのだから、黒シヤツ黨の手に收めた城砦を守備する必要があつた。其處で私は國家の安全を保證し防備を施す爲に義勇兵を創設しようとした。勿論其の任務は判つきりと決めて置かねばならなかつた。其の義勇兵團は歐洲大戰爭に参加した後、ファシストの謀叛に加つて、鬭争の經驗を積んだ老功者が指率しなければならぬ。

精妙なる政治團體である大評議會を組織すると云ふことは、私が政權を把握した以後に於ける大きな目的の一つであつた。私は典型的にファシストである政治團體を編み出す必要に迫られてゐた。毎日色々な問題が起つて来る此の問題の明瞭な返答が必要であつた——私は諮詢機關を必要としたのである。政府の首長たる複雑な仕事を審議しながらも、私は政黨の首領であると云ふことを忘れなかつた。大評議會はファシズムの推進機でなければならなかつた。大評議會中には異分子を混へなかつた——現在でもさうである。男性的なファシスト、閣員、輿論の代表者、専門の智識を有する者等で組織した。大評議會は恒に成功した。此の大評議會は五年間に比肩す可きものなき務を果した。今日私は此れを立法部にし度いと思つてゐる。

第一に起つて来た問題の一つは、警察力の統一であつた。普通警察と相並んで政治警察。司法警察があつた。亦近衛騎銃兵と近衛兵とがあつた。此の近衛兵制度はニツテイの設けたもので、除隊兵を以て編成し、しかも無用の長物であつた。私は直ちに近衛兵を禁止する可く意を決した。大體から云へば、此の禁止の爲めに、不幸な事件が起つたと云ふ様なことは莫かつた。トリノやミランの如き或る都市では、暴動が蜂起し、反抗の氣勢を擧げた。私は嚴重な命令を下した。私は地方の責任者を自分の室に呼ぶか、或は電話を掛けた。萬止むを得なければ暴動に發砲

しても苦しうないと命じた。六時間の後、萬事は平穩裡に解決した。四萬の武装者を一舉に解體するの四人の死者と數名の負傷者を出したに過ぎなかつた。將校は他の軍隊に編入するか、或は己が好む活動の道に着かせることにした。兵士は各自の故郷や家庭に歸還し、其れ以上手を焼かせることはなかつた。

伊太利の政治秘密結社は、最初新しい社會に順應し、ファシズムの政權に服従するかに見えたが、やがて私とファシズムに敵對して馬鹿な戦を挑み初めた。大評議會で、私はファシズムの黨員たると同時に秘密結社の黨員たることは許さないと宣言した。私は社會黨の首領であつたとき既に是れと同一な反秘密結社の政策を執つた。

一九二三年、色々と商議を重ねた結果、私は伊太利國家黨とファシズムとを併合した。元來此の二つの政黨は、國民生活の目的に關して、同じ政見を持つてゐた。けれども政治上の發達からして、此の二政黨は分立してゐた。併しファシズムは勝利を博し、國家黨の最良分子が既に新内閣に列して共同の仕事をしてゐる以上、是れを統一するのが一番明敏な方法であつた。亦其れは政治的誠意に基く行動であつた。黒シャツ黨と青シャツ黨——國家黨の正服——は完全に結合した。

一九二三年の四月、トゥリンで、國民黨の全國會議が開催された。此の會議は口數の多い學者ぶつた集會で、數十年來伊太利の社會生活を腐敗させた他の政治的會合と何等相違する處が無かつた。彼等は長い間ファシズムの治世政策に就て評論を戦はした、而して甲論乙駁であつたけれども、結局此の會合に出席した者の大多數は、反ファシストの色彩を帯びた中庸論に賛成の意を表した。

我内閣員中、國民黨に屬する者があつた。此の會合以後、彼等は困難にして且つ微妙な地位に置かれることになつた。私は國民黨の態度が變更され新局面を展開し來つた今日、其れでもファシスト政府の中に踏み止まるや否やと云ふ問題を彼等の前に提出した。色々と説明を聞かされた。異論百出であつたが、結局私は國民黨の閣内に有する椅子を投げ出した方が得策だらうと彼等に勸告した。

斯うした廓清の過程は、首相の印綬を帯びるや否や私は豫見してゐた。其の當時の總ての人間がファシズムの眞價を認めてゐたと云ふ譯ではない。猶多くの抗議者が伏在してゐた。多くの者はファシズムの眞劍的な方向を轉換させ得ると云ふ幻想を抱いてゐた。絡んだり、ひつくりかへしたり邪道に陥れたりすることの上手な人間が、如上の目的のもとに私に接近して來た。彼等は

勿論私が燧石の様に堅いのに氣が付いた。

一九二三年のメーデーは初めて平穩無事であつた。國民は平靜に仕事に従事してゐた。而して現在の伊太利で意味を失なつて仕舞つた過去を哀惜する者はなかつた。其の後私は伊太利の輿論に接觸し、ファシズムが何邊まで民衆の間に浸潤してゐるかを測定したいと思つた。第一に私はミランとローマーニヤに往つた。其の後、私はヴェニス、バデュア、ヴィチエンザ、シシリ、サルジニアを訪問した。最後に私はピアチエンザとフロレンスに旅行をした。我黨の將校や黒シヤツ黨員の間からばかりでなく、全伊太利國民の間から温かい熱誠が溢れた。伊太利國民は依頼す可き政府と首相を持つたと云ふ事を最後に悟つたのである。

黒シヤツ黨——革命の主動者——は何時も變らぬ熱誠を籠めて、私を黨首と仰いで呉れた。國民は其の自由を恢復し得たと思つた。彼等は私の政治上の仕事を歓迎して呉れた。私は幸福であつた。

此の當時、反對者は再び挑戦をいだした。和解や妥協で私を叩き倒すことが出來ないので、「夕報」の率ゆる反對分子は、幾多のくだらぬ豫言をする様になつた。彼等は事を詐つて攻撃の材料とし、而して爭論の網を張り廻らした。併し私は新しい選舉法を實施した。と云ふのは私は古い

比例代表の選挙制度の陥井に落ち込み度くないと思つたからであつた。私は國民黨、民主黨、自由黨内の或種の者を疎んじた。學校制度を改革したので、私は或種の反抗を買つた。

兎角してゐる内に、反ファシストの強襲を受け、伏兵に悩まされた。それは風雪暴れ狂ふ年であつた。其れは總決算をする困難な期間であつた。私はファシズムが國內の危機の爲に潰滅せぬうちに守らなければならなかつた。我黨の中で騒擾をかましたり、分裂を起させようとする者があれば、私は斷乎として是れに反抗したので、ファシズムを救ふことが出來た。ファシズムは一箇の單體である。其處には異つた傾向と違つた趨勢の存在するのを許さない。此の團體は二人の黨首を戴く譯にゆかぬ。ファシズムは教主政體である。其の土臺は黒シャツ黨員で、其の絶頂には唯獨りの黨首が坐つてゐる。

伊太利政黨の崩壞は、理想が動機になつて生ずるのでなく、私的野心・間違つた先入主・腐敗・不思議暗昧な勢力の爲に起るのであつた。私は是等の原因をよく心得てゐた。私は一步も讓歩しまゝと決心した。緊急を要する立法問題を議會に提出した時、私は議會を解散しようと思つた。充分勢力を伸長した後、私は一九二四年四月六日選挙を舉行する旨を發表した。

選挙を行ふと云ふことを發表したので、曖昧な政治的騒擾は治まつた。各政黨は出來得る限り

多くの得票を握らんと焦慮し、最大限の代議士を議會に送り出さんと一生懸命であつた。

ファシズムは普通の馬鹿な御祭騒ぎをやらなかつた。ファシズムは全國被選挙者名簿を作成した。其の中にはファシズムで有名な人ばかりでなく、現在の國民生活推行上國家の尊嚴を双肩に背負ふことの出來る者の名を列ねた。反對黨の者でも、曖昧な政見を持つてゐる者でも、役に立つ連中は其の名簿に加へた。此の全國候補者名簿の中には前總理大臣オルランドー、前下院議員デ・ニコラの様な人物も含まれてゐた。併し此の名簿の大部分は新人であつた。是れを實際に徵するに、二百名の老功者、十名の金メタル所有者、百十四名の銀メタル所有者、九十八名の銅メタル所有者、八十名の戦傷者三十四名の義勇兵から成立してゐた。此の名簿の大部分は戦争と戦勝の功勞者の中から選出したのである。

社會黨は共產黨から分立して劍を磨ぎ、又國民黨もおさおさ怠りなかつた。然し乍ら四月六日投票箱を明けて見ると全くファシズムの勝利であることが分つた。他黨候補者の得票は總て合算するも二百萬票しかなかつたが、此れに對してファシズムの得票は五百萬票に上つた。國民が私の政策と私の政治を支持して呉れたのであつた。初め私は反對黨をうんと壓迫せんと思つてゐたが、其れ以來彼等を大目に見て置いた。

私はミランに留つて此の政戦を指揮した。私は此の選挙の結果を重大視してゐなかつた。只私に興味を繋いでゐたのは、各伊太利都市の人々がファシストの候補者を何處まで支持して呉れるかと云ふことであつた。かく國民が裏書きして呉れたので、私の要路者としての仕事は大いに勢を得た。私は凱旋將軍の様に迎へられた。而してバラツゾー・チージの露臺に立つて羅馬市と羅馬の市民に挨拶をしながら私は新しき偉大なる伊太利を祝福した。

政黨を殺しても、祖國を救済しなければならぬと云ふのが私の主義主張の綜合であつた。

五月二十四日異常なる嚴肅さを以て二十七議會の開院式が舉行された。國王陛下は甚だ感銘す可き演説をなされた。議事堂の光景は古今絶無であつた。齒牙にもかゝらぬ政治上の理由で、國家を否定し、伊太利國民を誹る連中は、此の席に列しないと云ふ申合せをした。が、二十七議會の開院式は何等の支障も來さず、精神的に立派なものであつた。卑屈な政治的陰謀の巢であつた古い議會に、新しい生活の息が吹き込まれた。其處には伊太利の新精神を現す英雄的な氣持が漂つてゐた。

此の光景を眺めて社會主義者は憤激した。心の中で彼は戦ひを嫌ひ我々の勝利を貶してゐた。朽ち果てた代議士達は、此の新進氣鋭者の集りに同化することが出來なかつた。モンテチトリオ

の臆病者は心を合はせて、金メタルが表象してゐる勇敢な人々を褒めるのを好まなかつた！

新舊伊太利の紛争は、モンテチトリオで再び表面に現れ來つた。伊太利の街頭や國民の胸中では、ファシズムが勝利を制して了つたにも拘らず、議會では新舊伊太利の軋轢が停まなかつた。一九二四年五月二十四日の議會で、悲しむ可き豫想が適中し、其の序曲に這入つた。

數日を経過してから、普通の議會に於ける論争が起つた。新しい議員席から猛烈な罵詈の聲が放たれた。五月二十四日の開院式に退場した社會黨は、再び戰鬥の地位に着いた。雰圍氣は白熱化した。我慢に我慢をして私は最初の議場の紛擾を和けた。盲目の老功者、カルロ・テラクロイが六月六日にやつた演説は、論争の水準を引き上げるのに頗る効果があつた。六月七日私は餘蘊なく反對黨に向つて答辯した。私は彼等の運動を排撃した。私は議會に於て平靜・平衡・正義の感を持たせる様にしたと希つた。私は平和を深く眞面目に希望してゐた。併し私の言葉が成功したのは唯表面丈けであつた。

社會黨は神經過敏になつた。彼等は實在に對して目を閉ぢた。總ての新しい政治的現實主義は彼等の傾向に照して見ると矛盾撞着だらけであつた。彼は敗北の憂目を見た、而して彼等は夫れを識り盡してゐた。事態かくの如くなるが故に、社會黨は少なくとも議會を最後の據り處にして

頽勢を挽回するの道を講ず可く方策を廻した。

有らゆる政治的技能に老練で抜目のない社會黨は、案出し得る限りの秘術を盡し、最限もなく防害をやつた。其れは我々の堅城を抜く爲に深謀を廻してやつた仕事であつた。激怒してやつた彼等の仕事の中で、議員マツテオツティは嶄然頭角を現してゐた。彼はロヴィゴ縣出身の社會主義者で、尊大傲慢な精神と政治解體主義を持して動かなかつた。社會主義者として彼は戦争を嫌悪した。マツテオツティは議政壇上の論議を爲すに當り、有りつたけの奸策と工夫を凝らした。彼は百萬長者であつたので、社會主義は單に議會内の信條だと考へてゐた。彼は論争中に敵側を憤激せしめ得る熱心な闘士であつた。けれども議會を混亂させ、ファシストの如き政黨を沈黙せしめるには、未だ未だ力が足りなかつた。マツテオツティは首領ではなかつた。選挙區で彼はファシストを向ふに廻し猛烈に闘つた。而して議會で彼は最も熱心な反對者として再び活躍した。或る日マツテオツティは羅馬から姿を隠した。政治的犯罪を犯す者があると云ふ噂が直ぐ立つた。社會黨は非難攻撃の材料にする爲にマツテオツティを探した。而して判つきりしたことが分る前に、直ぐ彼等はファシズムを辯難した。私の命令に基き、我黨は一生懸命に取調べを行つた。當局は正義の爲めばかりでなく、此の事件が起るや否や、色々な中傷が擴まるのを防止する

爲め全力を擧げて探査することにした。犯罪人を發見する爲に警察は有らゆる手段を講じて活動せよと私は命じた。直きに犯罪者を發見することが出來た。犯人は御歴々の人々だつた。彼等はファシスト團に屬してゐる者であつたけれども、我々が責任を負はねばならぬ様な範圍の人物ではなかつた。

犯人に對しては厳格な手續を執つた。嚴酷な處分をした——或場合には極端だと思はれる位、一嚴びしくやつた。

疑念は直ぐ晴れた。官憲も、警察も、裁判所も拘束される様なことは些しもなかつた。

此の爲に暴風は鎮靜に歸したであらうか。

處が事實は正反對であつた。私は國家の一般政策として私自身にも、亦誰にでも平靜沈著たらんことを要求してゐるが、此の劇的事件の爲に其の靜穩状態は掻き亂された。中央政府は嚴格な詞を持してゐるにも拘らず、ファシズムと其の黨首に向つて、比類なき攻撃が火の手を上げた。議會に於ける反對黨は大規模な襲撃の火蓋を切つて落した。彼等がこんな無智な眞似をするのは哀れな犠牲者を惜しむからではなく、單にファシズムを嫌ふからほかならないことを私は直ぐ見て取つた。

私が豫期してゐたことゝ寸分違はぬ成り行きになつた。反對黨は伊太利の政界を毒するを目的とし、又ファシズムを國の内外に中傷する爲め、マツテオツテイの死屍を材料に供した。

一九二四年六月から十二月に亘つて、伊太利の社會は如何なる國の政戦にも絶對に見ることの出来ない光景を呈した。其れは恥づ可きことで政黨の不名譽である。新聞、會合、種々雑多な反ファシスト黨、誤つた智識階級、敗北した代議士候補者、頭の柔弱な臆病者、彌次馬、寄生動物は、マツテオツテイの死骸に烏の様に蒐まつて來た。犯人を逮捕したのでは満足しなかつた。死體の發見死因は犯罪の爲めではなく創傷の爲めだと云ふ外科醫の陳述では不満だつた。

反對黨及反對黨の代議士はモントチトリオから退き、以後立法上の仕事には關係しないと云つて脅迫した。アヴンテイーノ團と云ふのが出來た。社會主義者から自由黨員に至るまで、民主的祕密結社員から國民黨員に至るまで、此の團體に加つた。祕密會議が催された。彼等は伊太利の社會を破壊す可き新聞と集合の自由を色々の方面から唱導した。狂信的な分子をファシズムを顛覆しようとして云ふ相談で數時間を費した。此の愚昧な御祭騒ぎの背後には、元老院議員アルベルテイーニと云ふ人物が立つてゐた。此の男は幸福にも新聞の持主であつた。此の男は自から乗り出して塵芥を拾ひ集め、下等な惡漢の言葉に耳を借し、最も虚坦な文字を列ねた小冊子を蒐集し、

どうにかして、何時か、何處かで私とファシズムを打ち倒してやらうと準備してゐた。私は一瞬たりとも疑念を差挿んだり、意氣をそさうする様なことはなかつた。私は敵の態度、心構へ、姿體を善く知悉してゐた。

異常時の非常手段、紛擾、激情の爆發を伴つて、我々は再び革命の深淵に落ち込まうとしてゐた。多くの判事は祕密結社の影響をうけ、正しい判斷を下すことが出來なかつた。國外に在る各種の政黨は、伊太利國內の社會黨を援助した。

暫くの間ではあるが、或る政界の空氣中では、政府は薄弱になつたと云ふ妄想を起した。一九二四年十二月、即ち苦惱の三ヶ月が過ぎた終りに、或者は我内閣の命數を指折り數へてゐた。政權に飢えてゐる者の心中には、大きな望みが擡頭した。曾て首相の椅子に着いたことのある三人の人物は哀れむ可き運動を起した。私が黒シャツ黨員に命令を一下すれば、彼等の空想や夢は一舉にして覆滅すると云ふ事が解らない程、此等の職業的政治家は實際上の智識が缺けてゐた。

カミかえつた蛙は、勝利の榮冠が天から落ちて來るのを待ち憧れてゐた。腐敗した新聞は誹謗中傷の限りを盡し、犯罪を犯すやうに煽り立て、惡口の環を益々擴げた。最高の均整を保たる可き國王陛下をも、脅喝する者があつた。自分達が政治的に再生する爲め、時局の潮流を轉換せし

めようと熱中してゐる冒険家があつた。かゝる下等で有害な水夫共は、私が統制してゐる活動の範囲や地位から蹴出してつた。

是れにも飽き足らざるものゝ如く、一九二四年の暗黒なる十二月に、チェザーレ・ロスシーは憎む可き策謀を廻した。此の男はマツテオツテイ事件の連類であつたので、ファシズムから抛り出された者である。彼は虚偽と讒謗で織り出した覺書を書いてゐた。彼は政體に罪を著せ、延いては私をも其の中に巻きこまうとした。斯うした人間の書いた此の覺書は、私を道徳的に葬らうとしたのである。然し此の方面で、私が非難される譯はない。此の種の計畫は徒勞であつた。ロスシーがやりつゝあるたくらみは前以て私は感付いてゐた。此の覺書の内容、反對黨の新聞に印刷される日にも私の耳に這入つてゐた。私は此の笑止千萬な行動の止めを刺した。私は味方の新聞に該覺書を掲載した。かくしてこんな物には價值がないと云ふことを私は教示してやつた。其れは御笑草であり、妄想であつた。彼等は芝居がゝりて踊つて見たが、何れも無駄骨折りであつた。

此の輕蔑す可き競技は六ヶ月續いた。半信半疑な者は水面から下に沈んだ。悲調な歌の唱ひ手は咽がひつついた。其時、嘗て大臣の職に在つた者で、伊太利國の最高勳章コルラーレ・デル・アヌズイアータの持主は、共和主義に加盟し、最惡の社會主義者と伍するに至つた。

此の期間、私は固くファシスト黨を自分の掌中に握つてゐた。或るファシストは猛烈な仇討を決行しようと思つてゐたが、私は此等の人々の衝動を抑制し、「衣囊中に手を差し込んで置くが善い！自由に手を動かさなければならぬのは私丈だけ」と明白に命令した。だが、フロレンスとボローニヤで極端な暴行事件が起つた。其處で今は喋つて實行する時だと私は思つた。

總て此等の時代に處するも、私は平靜を失はず、心の均衡と正義の觀念を決して忘れなかつたと自信してゐる。靜かな判断を下し、私は犯罪人を逮捕する様に命じた。私は正義に由つて一直線に進み度いと願つた。私は正當な人間として自分の仕事、自分の本分を盡した。敵手に對しては私は自から矢おもてに立つた——公然と。

羅馬に一般同盟罷工の脅威が起つた時、私はフロレンスの義勇軍に首府の街區を練つて歩けと命令した。武装した義勇兵が軍歌を唱ひ乍ら行進したので罷工鎮壓に大いに役立つた。其れは一つの論證であつた。一九二四年の九月、私はタスカニヤ・ファシズムの最も緊張してゐる地帯を訪問した。私はアマアタの地方人の間に、労働者農民の間に、シエナ縣の鑛夫の間に赴いた。其の當時、反對黨は私の失墜——多くの敵は潛越にも密かに其れを希望してゐた——を待つてゐた、

處が其れに對して私はファシストに向ひ、豪膽な命令を下してゐた。

我々の反對黨に就て、私は「我々は黒シャツ黨の寢床を作るだらう」を云つた。

反對黨の新聞は此の言葉に就て大騒ぎをした。併し彼等がベチャクチャ云つても何んでもなかつた。其れは一九二五年一月三日に明白になつた。其の當時羅馬は地方を追放された者、政戦の結末を慄え乍ら待つてゐる者で一杯だ。其の時に當つて私は議會で一場の演説をやつた。其の演説は何事にも遠慮せずによつてのけた。

此等の言葉でファシストの伊太利は突然覺醒した。私が豫見してゐた如く、事局の上に低迷してゐた密雲は、四十八時間経つか経たぬ内に晴れ上つた。其れまで反對黨の新聞は羨望に耐えず嫌惡の情を燃やし、事實を虚構して攻撃の材料にしてゐたのであつたが、其れが再び彼等の穴にもぐり込んだ。カと責任感に横溢した新しい事局はドシ／＼發展して行つた。ファシズムは前進することが出来るやうになり、ファシズム丈で國を治めることになつた。

此の機會に自由黨出身の大臣、サルロツクキーとカサテイ及び微溫的なファシストである大臣オヴィリヨオは、臺閣から隱退したいと申し出た。其處で私は彼等の辭表を受け取り、ファシストを以て三大臣の空席を埋めた。我々は天下の大勢に押されて、自分達の運動の本來の面目に立

ち戻り、絶対に妥協を許さぬと云ふ態度に復歸した。

ファシズムは私の信念に溢れた辭に動かされ、元來の武士魂に還元した。ファシズム以外の者も我々の運動に加盟したがつた。併し其れでは我政黨の積み荷が餘り多すぎるのを怖れ、新しい入黨者は加へぬことにした。

勝利は完全であつた。前首相輩の運動は全く失敗に歸し、滑稽至極なものになつた。

一九二五年一月の下旬になると、我々の政敵の總てを抱含してゐるアゼンテイーノ黨の内部に、不和が起り分裂の氣勢昂まり、遂に潰滅しさうに見えた。私は再び全戦線に亘つての勝利者となつた。而して私はファシスト革命を制度と憲法の中にまで喰ひ入らせようと準備した。

國防義勇軍はファシズム最良分子の代表であり、亦私が初めて編成した軍團である。此の國防義勇軍は、一九二四年十月二十八日國王陛下に對して忠誠を誓つた。一八四八年に制定された憲法は流行遅れなので、是れを現代的に改訂し、又新伊太利にふさはしい新しい代表制度を作成する必要が生れた。

此の目的を達成する爲に、私は治國策に達識な士十八名を選び、是れを委員に任命した。私は此の委員の手で伊太利立法機關を代表す可き改革案の準備をやらせることにした。

やがて此の委員會をソロン委員會と呼ぶことにした。此の委員會は或る一定の期間内に、舊憲法を改正し、新制度を作出する原案を完成した。其れから以後、私は此の原案を基本にすることにした。此の委員會は當時確然とした大綱を定めたのではない、併し其れは改革案に貢献する處が多かつた。其の後私は改革案を明確なものにし、而して上下兩院が此れを肯定した。

秘密結社を禁止する法案は議會を通過した。其處でファシズム對秘密結社の鬭争は適法なものになつたのである。最高の政府當路者及司法者の支配を享けぬ團體があり、其の團體が潛行的に社會の仕事をやると云ふのは、一九二五年代には有り得可からざること、不合理千萬である。

近代の生活、現代の生活中に、秘密結社が存在すると云ふことは、社會を脅威するに非ずんば、無意味な長物である。總ての結社は其の目的、組織、會員、發達状態を公表す可きであると私は思つた。

私は一九二五年の二月、病氣に罹り重體に陥つた。事を大袈裟に言ひ振らされるのを慮り、本統の病狀を發表しなかつた。或る意味で、時局はなか／＼重大であつたに相違ない。四十日間私は一步も家を出ることが出来なかつた。敵は私の死期近づけりと云ふ妄想を描き、其れに大きな望みを繋いでゐた。ファシストは私が緘黙を守り、また譯の判らぬ情報が流布されるので、非常

に心を痛めてゐた。自分の部下にとり、腹心の人々にとり、伊太利の民衆にとり、私が必須の間だと云ふ事實を此の時程感じたことは未だ會てなかつた。黒シヤツ黨は早く私に會ひたいと焦慮してゐた。

三月も逝く頃、即ちファシズムの礎石が置かれてから六年目の記念日に、病氣が快癒したのでバラツゾー、キートジの露臺へ、私は姿體を現した、而して私の前には羅馬の全景が展開されてゐた。私は未だやせかけて眞青な顔をしてゐたので、深い同情心が民衆の間に起つた。私は花咲く春をことほぎながら大衆に向つて挨拶をした、而して色々の事を云つたが、其の中で「今や最善のものが出現するでせう」と一言した。此の文句は様々な意味に解釋され、拍手喝采が起り、稱讚の聲が盡きなかつた。

バステイアネルリー教授、マルキアファア教授と云ふ様な上手な醫者が診察してくれたので、私の病患は全快した。私の病氣を是れ幸に、自分達の手足を延さうとしてゐたけちな奴等ははたと困つた。病を得たから仇敵はまいつて終ふだらうと、其ればかり望みの綱にするのは、下司の下衆である。私は過ぎし日より一層元氣旺盛で、健康になつた。前に一度生命を奪はれやうとした時、私が口にした「彈丸は貫通した、たがムツソリーニは生きてゐる」と云ふ言葉を繰

り返すことが出来た。

私の複雑にして困難な生存を裏をする事件が相次いで起り、私の一命は危態に瀕した。

ザニボニーは一連の計畫をたくらんだ。彼は下品な社會主義者であつた。彼は反ファシストの指揮棒を揮る爲に、チエツコスロバツキヤの社會黨から十五萬フランの小切手を二枚請取つた。麻酔藥の耽溺者であるザニボニーは此の三十萬フランを使用し、極悪非道な策略を恣にして、私の息の根を断たうとした。彼は神聖なる戦捷記念日を選んだ。彼はバラツゾオ、キージの眞向ふに在るドウラゴニー、ホテルの一室に身を隠してゐた。バラツゾオ、キージの露臺から、不明の戦死者の祭壇に赴く行列を檢閲するのが私の習慣であつた。立派な照尺の付いてゐるオーストリヤ銃を抱え込んでゐた此の男が、狙ひをはずすことは有り得なかつた。疑ひの眼をそらす爲にザニボニーは、陸軍少佐の軍服を着込んでゐた。而して彼の目的を果す可く朝つばらから用意をしてゐた。彼は見あらはされた。長い間彼は尾行されてゐたのである。數日前カペルロ將軍は彼に金を掴ませ、あゝしたらいい、かうしたらいいと指圖をした。此の悪計に參與したザニボニー、カペルロ將軍及び其れ以下の人間は、いざ事を揚げようとする一時間前、一網打盡に繩目にかゝつて仕舞つた。

かくして私を暗殺せんとした第一章は終つた。

一九二六年四月、私が世界醫學大會をやつた時、英國に國籍を有する氣違染みた誇大妄想狂の女が、私の自働車に近寄り、極く近い處で發砲した。彈丸は私の鼻穴を貫通した。もし一メートル異つてゐたら、此の爲に落命したかもしれなかつた。其れは私が前に言つた通り、氣の狂つたヒステリーの女性であつた。彼女は善く身元の判らぬ連中に使喚されたものであつた。

私は彼女が自分の失敗と愚行を氣が付くやうにさせ度いと思つて、伊太利國外に追放した。

此の事件が起つてから、未だ鼻の繻帶がとれぬ内に、私は伊太利地方官會議の席上で一場の演説をやつた。「私が前進してゐる時には私に躓いて來るが善い。私が畏縮した時には私を殺すが良い。私が殺されたら、仇を討つてくれ」と私は云はざるを得なかつた。

ルチエツテイと云ふ無政府主義者のやつた事は、時に依ると大變な結果になつたかも知れなかつた。ルチエツテイはファシズムと私に對する怨恨の情を含んで佛蘭西から歸つて來た。彼はピア門の前の、ヴィア、ノメンタナで私を待伏せしてゐた。彼は黙つて自分の兇行をたくらんでゐた。彼は羅馬に八日間滞在し、強力な爆彈を携帯してゐた。私がバラツゾー、キージに赴かうとしてゐる途上で、ルチエツテイは私の乗つてゐる自働車を見付けた、而して彼が夫れを認める

や、間髪を入れずして、にくむ可き殺人器を投げた。其れは自動車に當り、地上に跳び降り私が通過した後で爆發した。私は微傷だも負はなかつたが、無辜の民が負傷し、病院に擔ぎ込まれた。

逮捕された時、此の憐れむ可き人間は、反ファシストの怨恨に驅られてやつたのだと自白した。私は此の事件を重大視しなかつた。英國大使と面會する約束があつたので、私は其の儘直接にバラツゾー、キージに往き、外國の使臣と平然として言葉をかはしてゐたが、街上の示威運動が盛んになつたので、其れを中止した。其の時初めて英國大使は自分が危く暗殺される處だつたと云ふのを知り、聊か愕然としてゐた。

一番最後の暗殺未遂事件は、一九二六年十月三十一日であつた。其れはボローニヤでの事だ。密謀を凝らしてゐた一團に煽動された若い無政府主義者は、全市民が歓迎の爲に堵列してゐる時、其の列の中から跳び出し、私の自動車に向つて一發を發射した。私はボローニヤの市長、アルピナーテイの傍に坐つてゐた。彈丸は私の外套を焼いた、併し又しても私は無事であつた。さうかうしてゐる内に、群衆は憤激で盲目になり、なだめることが出来なくなつた。其の場で此の男は私刑に處せられた。

他の襲撃は挫かれた。憤慨は止る處を知らなかつた。今や敵側の陰慘な計略を阻止する時だと私は思つた。秘密結社、反對黨機關紙、欺瞞行爲を事とする政黨等は、彼等に共通する唯一の目的を持つてゐた。「ファシズム全體を倒滅せんとするならば、ファシズムの首領を叩き倒すのが第一だ」と云ふのが、彼等の唯一の目標であつた。伊太利を支配してゐる此全運動は一つの中軸を中心とし、一つの名前を中心とし、或る一人の不羈獨立の人物を中心として旋回してゐるのだと信じ切つてゐた。總ての敵は最も忌はしい奴から最も聰明な人物に至る迄、最も狡猾な連中から一番狂信的な輩に至る迄、「ファシズムを破る唯一の道は其の首腦者を倒すに限る」と想つてゐた。國民は此の間の消息を知り抜いてゐたので、犯罪者には重刑を課す可しと要求してゐた。怒髮冠をつくファシストは、秘密裡に聯合して事を擧げんとしてゐる連中に、訓戒をしてやらうと云つてゐた。

武斷政策は絶対に必要だつた。私は内務大臣も兼攝することにした、而して政體を保護する法律を發布した、此等の法律は新しく統一された國民生活の根本基底となる可きものであつた。

私は反對黨の新聞を禁止した。彼等の只一つの目的は國民の心に火を放つこと丈けであつた。地方官憲は専門の破壊主義者を拘禁した。崩壞、紛擾、不忠を事とする勢力に對抗する爲に執つ

た此の方策は、伊太利社會に非常な結果を齎した。我々は此の好結果を思はぬ日とてはない。

強硬政策が明確な結果を生んだと云ふ結論を私は茲でしなればならない。國民はファシズムと國家の生活力とが同一物であると日に日に思ふやうになつた。一人として伊太利から追放される者はない。誰も彼も一定の法治政體のもとに生活してゐる。往時の破壊主義者も、規律正しき生活は利する處が多いと思ふやうになつた。かゝる生活は一つの階級の利益のみならず、伊太利國民の各階級を救ふものであると悟つた。目下監禁される者は少ない、而して反抗的精神を把持してゐる者も少數である。私は一九二七年一月六日、内務大臣としての資格で、各府縣知事に同文通牒を發した。其の文書中で、私は地方長官の國民に對する任務を指示した。

伊太利全國民と各階級の運命を導くものは、正義・目的・一致共同の新しい觀念である。迫害や亂暴な行爲は影を潛めた。善事福祉の昂進と、高遠なる英雄主義が盛んになつた。各階級を通じ全國民のうちにあつて、伊太利國家に反對する者はない、亦國外にあつて母國に弓をひく者も皆無である。

遂に多くの者は此の眞理を認めるに至つたのである。伊太利人は正義の大事業を完成する爲に、一致共同するやうになつた。義務を重んずる觀念、空想を捨て、事を實行するの必要、國民生活の様式を一覽すれば、如何に伊太利國民が覺醒しつゝあるかと云ふことが判然しやう。廢頽しきつた古い政黨は永久に死滅して了つた。ファシズムに於て、政治は生きた精神的現實の中に吹き込まれてゐる。其れは信仰である。其れは偉大なる國民の歴史を再生せしめる精神力の一つである。

十一 新しき道

新しい構造の建物を見乍ら、又は槌が打ち下されコンクリート混合機がグルグル廻つてゐるのを眺め乍ら、工事監督者にバーナード・シヨオに關する意見を求めたり、或は建築家に鎖夏場所としては山がよいか海が好きかと聞く場合には、其の質問と目前の仕事とは別個である。

私及私の生活と、私の過去現在に於ける仕事とを分離する事は出来ない。私は仕事と云ふ織物の中に編み込まれてゐる。仕事と私自身は互に織られた一體である。他人は枝に附いてゐる葉の囁きの中にローマンスを求める、併し私は自分の耳目、自分の總ての感覺、自分の思想、自分の全部の時間、自分の全精力を、社會と云ふ樹幹に振り向ける。

私の生活の詩歌は、物を建設する詩歌である。我生存上のローマンスは、手段・政策・國家將來を思ふローマンスである。

私が首相としての六年間を回顧するに、幾多の懸案は解決されてゐる。其の問題の一つ一つは我生涯の一章であり、我伊太利歴史の一款である。其の章款には長短の別あり、簡複相異なるものがあるけれども、此れを要するに人類進歩の歴史である。

私は誤解されても其れを深く意に介さない。結局、私は虚實家の私語を聞くのには餘りに忙がしすぎる。

過去に於ても左様だが、現在に於ても、私を世界平和の敵だと思つてゐる者がある。さう云ふ連中には私の自叙傳を注意深く読んで呉れと云ふより外に云ふ可きことはない。事實の記録は、一愚人の非難攻撃よりも遙かに價値がある。

最初から私は、伊太利の外交政策を徹底的に改造しようと思つた。私は我國の歴史及我國の物質的精神的可能性と世界各國との關係を充分理解してゐた。かゝる政策の改訂は我々にとつて全く新しいことであつた。我の問題としてゐたことは、歐洲各國の責任者の眼を開くにあつた。「戰役の伊太利は不安状態に置かれてゐる」と、各國政府は只だ唯だ無我無中に信じてゐたのである。

時としては聲を大にして注意を促し、以て彼等の眼を開くのは容易な術ではなかつた。伊太利の外交政策中には決して奸惡な處はないと外國に悟らせる迄には、幾多の年月を費した。此の了解があつたので、自然に伊太利の世界に於ける地位は高まつた。

一九二八年の春、私は元老院で外交政策の演説をなし、伊太利の世界に於ける地位並に伊太利が關係してゐる世界的事件に就き其大小を問はず概説した。其れによつて私の仕事の明確な輪廓を描き出した。其れは我内閣がかち得た具體的な成功の要點を摘んで物語つたのである。

併し此の具體的結果に到達する迄には、なか／＼困難な過程を辿つて往つた。如何に各國が羅馬を疑問の眼で見てるたかと云ふ事を、私は善くよく知つてゐた。

其れにも拘らず眞理は簡短明瞭な政策の背後から光りを放ち、而して不正、凡庸なる心境、日和見主義の精神に打ち勝つた。

此等の外交政策は深大なる注意を拂つて案出し、國民の肯定を経たものであるにも拘らず、國內から非難の聲が起つた。其れは無智と悪い信念に基くのであつた。批判をした一人はスフォルザ伯爵である。彼は一九二二年十月、伊太利大使として巴里に駐在してゐた。此の人物が曾て大臣席に列してゐた時は多辯で信賴出せず、國にとつての厄介物、邪魔物であつた。複雑な外交政

策に對しては皆目素人である此の前任大臣は、巴里に於ける自分の地位が非常に微妙なものだと云ふことを悟らなかつた。自分の政權を失ひ、其れに對する戀々の情が満たされないので、彼は母國に對する悪い僕となつた。スフォルザは自分が佛蘭西の首府にゐて、ファシスト政府を將に惱ませんとしてゐた。既に佛蘭西政黨は伊太利國內が新たに統一されたことを悦ばなかつた。スフォルザ伯は、對外對内政策、政治組織、ファシスト伊太利の觀念に關する私の宣言を、公然と批評し初めた。私は彼に電報を打つた。此の電報に對して、スフォルザ伯は瓢箪の返事を寄越した。其處で私は彼を羅馬に召還した。色々説明を聞いて見ると我々の二つの心は到底一致し得ないのが分つたので、私は彼の職を奪つた。下級官吏が中央政權を兎や角云ふのは最早許す可からざる處であつた。伊太利の政治生活は命令・組織・紀律を必要とする。海外に駐在する我代表は、本國に對する第一義的な責任を忘れ、冷淡・孤立・我儘勝手な生活を送つてゐた。此の強硬な初めての私の行動は明白な合圖であつた。此の態度は、國家の最高權力に服従しない他の外交使節に對して一つの示例をしめすものであつた。

我外交界に於ける此の破綻を取り纏めてから、將來を決定す可き政治問題の解決に我全精力を傾注した。事態は前政府の大失敗の爲に、既にねじれてゐた。幾多の平和條約は全體として不利益極まるものであつた。

ユーゴスラビヤと結んだラツバルロ條約の傷口は、未だ癒えてゐなかつた。私は其れを斡旋して癒さうと希つてゐた。一九二二年十一月十六日議會でやつた外交演説で、私は條約の微妙な點を基本にし、自分の地位を説明した。「善かれ悪かれ條約は實行しなければならぬ。信用ある國家は他に執る可き方法はない。併し條約は永久なものでもないし、亦補修し得可からざるものでもない。」と私が常に主張してゐる様に私は云つた。各國に對する外交政策に言及した時、私は自分の思想を明確に斷言した。「我々は不健全な利他主義の計畫、或は他國民の計畫を全然破壊するやうなものを肯定する譯にゆかぬ。我々の政策は自主的政策である。それは堅固にして嚴肅である。」

私は一九二二年十一月、ロザンヌで佛蘭西のボアンカレ、英國のカーゾンと會見した。聯合國と初めて自身から接觸した結果、私は勢力均衡を再建することが出來た。伊太利が英佛と肩を並べて同等に國際問題を議する時が來たのである。ロザンヌに滞在してゐた期間は短かつたが、其の間に私はルーマニアの外務大臣、及米國の羅馬駐在大使にして此の會議に於ける米國の委員主席リチャード・ウオツシバーン・チャイルドと別に相談をやつた。

スウィツルに行つた私の旅行中の仕事を要約すれば、下の如くである。(一)我々は外國の使臣に新伊太利の威令を知らしめたこと。(二)私自身と世界各國の責任ある外交家と直接に相觸れ外交政策の新例を示したこと。

其の年の十二月、私は我外交事項に關し閣議で重要な宣言をした。私はラバルロ條約を再び検討し初めた。私はフイユーム及ダルマチャ問題の解決に手を染めた。私が不幸にして繼承しなければならなかつた前の條約の結果生じた事態に適合した解決を着けようとした。私はカーゾン卿との第二回目の會見を行つた。それから私はロンドンに赴き、數日間其處に滞留した。此の機會に私は非常な歡待を受け、而して英國の政界は私の言葉を傾聴してくれた。

此の時既に聯合國債務問題が論議に登せられてゐた。私はチャイルド並に羅馬駐在の英國大使と意見を交換してゐた。此の問題を解決するのに最も有効な案を私は持し、是れを提出するに躊躇しなかつた。私の案は聯合國内に相當の興味を喚起した。併し二次的な意見の相違、殊に佛蘭西がルール占領を策してゐたので、私の意見は採用されなかつた。私の意見では獨逸賠償問題と共に債務問題を最も論理的に解決する案であつた。此の解決案が實行されたら、世界經濟はもつと早く有効に回復されたかも知れなかつた。

經濟に關する國際問題が、私の外政策の組上に載せられてゐた。此處に於てか私は一九二三年數ヶ國と幾多の通商條約を取り結んだ。勿論是等の通商條約は政治的背景を持つてゐた。此等の通商條約は我經濟的地位を安定せしむるにあづかつて力があつた。一九二三年、私はズウリツヒで締結した伊太利スウイス條約に調印した。私は海軍制限に關するワシントン條約を批准した。一チエツコスロバツキヤ、ポーランド、西班牙、佛蘭西と通商條約を交換した。私はソヴェット露西亞と經濟關係を恢復す可き第一步を踏み出した。

國際關係の我記録を繙いて見れば、我々が如何に平和の建設、友誼を結ぶことに不眠不休で努力したかが判明する。一層平和に、益々親密に、我々は我國の自主權を傷付けず、又我國の權力を他國に抵當に入れると云ふ様なことは許さなかつた。夢や幻の計畫ではなく、現實の上に平和の殿堂を建設し、以て平和を維持するのに努力した。我々は此の意味からすれば理想主義者である。私は強硬な態度を持して搖がなかつた。併し私は大きな氣魄を持つて働いた。

私は領事の官制を改革し、外國人を領事に任命するのを中止した。我舊來の領事制度を改造する必要があつたので、私は長時間を費し、廣い範圍に亘つて此の仕事を實現した。此の問題は複雑してゐたが、私は確固不拔な態度で此の改造を乗り切つた。

外交政策と外交機關に關する此の入組んだ仕事をやつてゐる最中、而して私が地中海問題の解決を研究してゐた時、アルバニヤに屯する伊太利の軍事使節が、邊境からやつて來た兇賊の爲に街道で待伏され、全部虐殺された。此の悲劇で、エンリコ・テルリーニ將軍、ルイジ・コルテ軍醫、マリオ・ボナチーニ砲兵少佐、フルネテイ兵卒が殺害された。伊太利の軍事使節は、明確なる國際的了解の下に一つの明白な使命を帯びて、他の諸國の軍事使節と共にアルバニヤに駐在してゐたのであつた。伊太利及伊太利の名を穢したと云ふことは、直向うから伊太利の感情を打ち叩いた。歴史には斯ふした實例があり、既に一定の標準がある。私は伊太利全土に捲き起つた正義の激憤を代表してゐた。私は時を移さずギリシヤに最後の通牒を贈つた。

私は陳謝せよと要求した。私は賠償金五千萬リラの支拂を請求した。

ギリシヤは我々の要求に對して馬耳東風であつた。私の要求に對しては云ひ掛りをしたり、申し譯をする丈けに止まつた。ギリシヤとしては、聯合國を頼みにして、我が要求をいゝ加減にごまかさうとした。私はそんな野卑な定跡の相手にはならない。ぐづぐづせずに私はギリシヤの領有地であるコルフイユ島に艦隊を集合した。同時に私は列強に通牒を發した。國際聯盟は此の事件を判斷し解決する力がないと宣言した。私は引續きコルフイユ島を占領し、若し満足な解決が

得られなければ、伊太利は國際聯盟から脱退すると揚言した。此れは單に偉ら相な言辭を弄し徒らに罵詈してゐるのではなかつた。其れは伊太利將士の生命に關する問題であつた。私としては或る官僚的な仕草でやすやすと此の悲劇のペーヂをめくつて仕舞ふことは、何んとしても出来なかつた。

此の事件が大使會議に持ち出された時、豫想してゐたやうに、伊太利の地位は安固であつた。ギリシヤは私の要求を容れた。賠償金は支拂はれた。此の賠償金の中から一千万圓を裂いて、其れをギリシヤの亡命者に與へた。充分満足な結果が握れたので、私は艦隊をコルフイユから呼び戻した。此の事件はかうして落着した。

一九二四年一月、私はセルビヤの大政治家バシクと、ユーゴスラビヤの大臣リンチツクと協議の結果、新條約を締結した。此の條約の結果として、フィユーメは伊太利のものになつた。一九二五年に引續いて行はれ商議が濟んで、ネットウノー條約が調印された。此の條約は二國間の交誼關係を定めたものである。併し其れは未だユーゴスラビヤの批准が濟んでゐない。

廣い範圍に亘る國際關係が解決された時、我々は全くダルマチヤを喪失して了つた。此れはロンドン條約の定むる處である。私とバシクとニンチツクの三人は、善意を盡し一生懸命に懇談を

重ねた上で、是れは出来上つたのであるから、其れ以上の良い決定を見るのは不可能である。

ネットウノー條約は未だユーゴスラビヤ批准を経てゐないけれども、我々の國境はよく守られ少しも侵されるやうな恐れはない。ユーゴスラビヤは其の善意を表示するであらう。

一九二四年の外交政策は、元老院に於て三百十票對六票で承認された。其の年の十二月、大英帝國の新外務大臣、チャンパーレンと會見した。幾多の國際間の事件に臨んだ場合、チャンパーレンは何時も伊太利の友であつた。

一九二五年、私はアフガニスタンの政府と抗争した。此の遠國の首府で、我國人の技師ビベルノが殺害された。是れは内亂のまきぞえであつた。私は或種の要求を提出した。それは確然たる要求であつたが、私は遠き國との間に結ばれた友誼に對し固く門扉を閉すことはしなかつた。其の證據には其の後アフガニスタンの國王が羅馬に來遊された時、最も溫情を籠めて歓迎した。

暗雲は恒に去來してゐた。而して新しい雲峯が伊太利の空にモクモクと盛り上つて來た。新たに現れた雲と云ふのは、伊太利東部國境地方で獨逸人がたくらむだ反伊太利の宣傳である。一九二六年二月の頃、アデイジェ高地の各民族雜居地帯では、ファシストの政策は正義であり、力があると云ふことを認めてゐた。其時私はブレンネル峠の背後に住んでゐる獨逸人との關係に就て

うやむやにして置く譯に行かなかつた。私は二度單刀直入な演説を試みた。其の演説で小膽な陰謀屋や感傷主義者はブルブル慄えて終つた。私は此の機會に大使ボスダリーの職を褫奪した。ボスダリーはかくの如き重大事件の樞軸に乗じ、伊獨兩國民間の關係に重要な影響を及ぼす地位にあり乍ら、伊太利の如き國家の大使としてやる可き筈の事を爲し得なかつたからである。

私は此の際腹藏なき處見を述べたので、國境近傍にゐる獨逸人との關係は明瞭になつた。

アデイジェ高地に關する此の問題は、他の諸國との間に蟠つてゐた廣汎な關係を分明にした。恰も其の當時、私はブルガリヤ、ポーランド、ギリシヤ、土耳其、ルーマニヤの諸外相と重要な會見を行つた。

此の緊張した政治的リズムの御蔭で、羅馬は日に日に益々重要な政治活動の焦點になつた。私の忠實な外交政策が好影響をもたらし、伊太利は他の諸國から漸次注意を拂はれるやうになつた。忠實なる政策に依つて、大成功を博した。曖昧模糊とした科さは私の性情にあはない、従つて私の政策は一つとして曖昧多義であることを許さない。私はしつかりとして、しかも尊嚴を損せず語ることが出来ると思つてゐる。

私は國外に住む伊太利人に同胞愛と信義の通牒を送つた。私は彼等に移民と云ふ名前を付ける

のを好まない。過去に於て此の詞は屈辱的な意味を持ち、又或る場合には劣等な男女の意義に用ひられてゐたからである。他國民の感情を害せず、我同胞を保護し得たのは悦ばしいことである。此の保護政策は國際法と、國際間の修交を基にして立てたのである。

伊太利の側から云へば、我々は商業を營む爲に來た人、宗教的信仰を持つて來朝した人間、漫遊の目的で來た旅客、好奇心を満足させる爲に我國の、土を踏む人物を大に心をこめて歓迎した。私は我國に駐在する外國使節を尊敬する様に伊太利人を導いた。憤情に驅られた國民が、大使館や領事館に示威運動をなし國際上の爭議を紛糾させるやうなことは斷じて許さなかつた。かかる亂暴な行爲はもう廢たれて終つた外交慣習で、ファシズムは其れよりも明かに發達してゐる。是れを要するに私が實行した伊太利の外交政策は、簡明にして理解し易く、而して主な點は下の如くである。

第一に私のは平和の政策である。其の政策は空言空語・手眞似身振・單なる紙上の取引きの上に掛つてゐるのではない。其れは國家の威信、及び國民間の調和均齊を固める條約網から生れるのである。

第二に私は諸強國と特種の同盟を締結しなかつた。其のかはり私は伊太利が國交上繁榮するや

うな數多の條約を交換した。殊に歴史的に重要な國、譬へば英國の如きと條約を結んだ。

亦私は小國を相手に幾つかの條約を作るのを忘れなかつた。此處に於てか伊太利の威光は、世界の進歩の上に寄與する處少なくなかつた。アルバニヤは其の一例である。ハンガリーと土耳其は他の實例である地中海で相反目するのを避る爲め、西班牙と通商した。我國の産業と我外國貿易の一大進歩を圖らんが爲め、私は露西亞と獨立した通商關係を結ぶに至つた。

私は領事制度を改良し、是れを完全なものにした。私はファシズムで育つた新人を領事に任命した。私はファシズムの勢力を我が殖民地にまで及ぼさせることを忘れなかつた。新しき生活と誇りに對する觀念は、伊太利國內にある伊太利人のみならず、世界に散在する我同胞の間に横溢した。

我々にとつて殖民地の發達は、人口問題の論理的歸結たるのみならず、我が經濟狀態を解決する一つの法式である。歐州大戦争が十年の昔になつた今日、猶此の問題は充分の解決を見てゐない。我殖民地は多くない、しかも其れが改造されてゐない。我殖民地の開祖であるエリテウレアは昔乍らである。ソマリーランドは外交上の意見が一致したので、英領デユバランドを併合し、其の領域を増大した。最近デ・ヴェツキ総督の聰明な政策に待ち、ソマリーランドは泰平であ

る、而して多額の伊太利資本は、一定の目的に使用する爲め、亦は伊太利の労働者に仕事を與へる爲め我殖民地に向つて動きつゝある。リビア殖民地——チレナイカとトツリポリタニア——は戦争中、其の支配範圍が縮少され、海岸地帯と主要都市を領有するに過ぎなかつた。ファシズムが政權を掌中に收めた時、其の狀況はなかく危険であつた。併し又此れも一掃された。軍事占領政策は經濟的貫入政策と相待ち、チレナイカはジアラブ迄で、トウリポリタニヤは國際條約で定めた國境まで、完全に支配し、何等爭議の起る餘地をあまさない。

此の二つの殖民地は目出度く復活した。トウリポリーは最も美しい地中海沿岸の都市の一つになつた。醫學會は此の地を療養地として指定した。我々は都市の水源、灌漑の水源を發見した。私はトウリポリー地帯を視察し、全殖民地に改良を及ぼす可能性があると云ふ確信を得た。ガリア地帯は土地豊饒な南部伊太利の地帯と比較しても聊かも遜色はない。チレナイカの高原に對しても、是れと同じことが云へる。伊太利の前任内閣は腰が弱かつたので、奇妙な議會制度をチレナイカに施してゐたが、私は其れを廢した。今總督は其の地の住民と伊太利人に對し完全な責任を持つてゐる。此等の地域は無事平穩である。移民は引續き斷えることがない。資本が流入すれば、労働者も入り込む。

此等の二つの殖民地に由つて、我人口問題が解決されたとは云へない。併し此の事だけは注意して置いて貰ひ度い。伊太利人は内意を持つて、亦典型的殖民能力を發揮して、此の二つの殖民地を盛んならしめることが出来る。此の二地方は其の昔、羅馬の支配下にあつた、而して我々は是等の土地を發達させて昔の偉大さに歸さなければならぬ、新しき我一般經濟の進歩に寄與させなければならぬ。

羅馬に進撃する六ヶ月以前、議會に於ける自由黨の領袖ペアノは六十億萬リラと云ふ數字を示して、豫算の不足を公表した。

我反對黨の公表に依る此の財政状態は、實に累卵の危きにあつた。私が繼承した財政が如何に困難なものであるかは、良く知つてゐた。先行者の誤謬と缺點に胚胎した一つの遺物を、私は受け繼いだのである。國家と云ふ船の船體に、こんな裂孔があるのを氣付いてゐながら、長途の航海に出發するのは不可能かも知れなかつた。國の内外に於ける伊太利の信用を建てなほし向上せしめんとするならば、財政を急速に何んとかしなければならなかつた。

多くの必要な要求があつた。其の要求に迫られ、新紙幣を發行する爲めに、印刷機はグルグル

廻轉した。其の結果、伊太利通貨の價值は棒さげに下落した。此の現象は健全なる國家の豫算案を阻害したのみならず、總ての經濟生活、國家の全能率を顛覆した。

私は不必要な費用を削減し、大藏省から金を引出さうとする者に一大鐵槌を加へなければならなかつた。私は租税忌避者を狩り立てなければならなかつた。私は國家行政の各機關に非常な節約を申し渡す必要があつた。私は官吏の數が何處までも増加するので、此れを阻止する要があつた。其の上に諸外國に負ふてゐる負債は、私の顔を覗き込んでゐる。譬へ我々の財源に制限があつても、此の義務は履行しなければならなかつた。

國家、個人の別なく、債務に調印し、其れを支拂ふと誓つた以上は、其の義務は忠實に守らなければならぬ。

此の仕事をする爲めに、私は有要な人物を選んだ。私は大藏大臣にデ・ステファニーを任命したのである。デ・ステファニーはファシストで、又經濟學博士であつた。彼は支出を削減し、浪費を禁壓し、収入と租税の新財源を作つた。かくして收支豫算は二年間に平均がとれる様になつた。

戰爭の遺物である經濟組織を私は廢した。戰債を負ふてゐる新領地方の官僚制度を廢止した。

私は國債を發行して總てを解決した。

嚴格な經濟政策を初める前に、私は戰爭の爲めに不具になつた者を救ひ度いと思つた。戰死者の遺族を救護する國家の義務を定めた。此の仕事をやつてから、戰時の利益で急に成金になつた者を取り締るのは困難でなかつた。

國家經濟・財政の重荷を取り除きながら、私は個人の生産力を最大限度にまで發展させようとした。

我々はたいした自然の資源を持つてゐない。其れにも拘らず我國民は納税の義務を怠らなかつた。其の爲に一九二四年の終りに、デ・ステファニー大臣は議會で豫算の收支は整ふ様になつたと報告した。其れのみならず、一九二五年乃至一九二六年の財政年度になれば一億七千萬の剩餘金が出来るだらうと豫想した。

總ての政府の政策の基礎は聰明にして強力なる財政政策である。其處で健全な豫算の支持を受けるやうになつたので、政府の政策は完全な事實となつた。

我々は穴から這ひ出したのであつた。

やがてデ・ステファニーは辭職し、ヴォルビーが其の後を襲ふた。

國家の豫算收支が均整するに至つたので、私は英米二ヶ國から我戰時負債減却の件に就き同意を得なければならなかつた。私はワシントンに代表者を派遣した。ヴォルビー伯と外務次官グランデイが一行の主席であつた。此のかけあひは非常に巧く進んだ。我々は亞米利加の社會を満足させ、且亦伊太利の利益を保護す可き協定を結ぶことが出来た。

一九二六年一月二十七日、我々は英伊兩國間の相反せる關係を少しも傷付けずに、對英債務を處理することが出来た。英米二國は此の協約を批准した。伊太利も亦批准した。

困難な一年を通り越して、財政状態、伊太利の經濟状態が明白になつた時、即ち一九二七年にリラ新金本位を定めた。一九二七年の十二月、閣議の席上で、私はリラは金本位に復歸したと告げた。

私は勝利者の誇りを感じた。私は黒シャツ黨と政治的勢力を統御したばかりでなく、國家經濟と云ふ複雑困難な問題を解決したのである。國家經濟なる問題は、往々にして政治家の意志や政策ではどうにもならぬ場合がある。而して色々な要素が合した物質關係の機械作用に支配される。只經濟生活と、國民の構成に對して深き知識を有する者でなければ、大衆を満足させるやうな結論に到達することは出来ない。

十二 ファシストの國家

新しきファシスト文明の革新と試練中にあつて、全世界の興味を惹くことが一つある。其れは國家の共同組織である。

我々が此の國家組織に到着する以前、其の目的に達する迄の段取には長時間を要した。我々の研究、分析、議論は盡きる處を知らなかつた。併し此の經驗と試練の爲に大なる教訓を受けた。

現實それ自身が航海書であつた。第一に此の共同組織は單なる法律制度を創造しようと云ふ希望から生れたのではない。私の意見に従へば、其れは伊太利の特種事情の必要から發生したのである。經濟上の制限があり、仕事と生産の傳統が未だ發達してゐない場合には、洋の東西を問はず存在する必要に迫られて出現したのである。伊太利が統一され政治的に復活した最初の半世紀を通觀するに、何時も階級闘争が絶えない。其の階級闘争は一つの階級が他の階級を支配せんと欲するから起るばかりではなく、一夜の限りある資源を爭奪する結果生ずるのである。

支配權を持つてゐる中産階級に對峙して、他の一つの階級がある。一層了解し易くする爲には

私は其れを無産者と呼ぼう。無産者は社會主義者と無政府主義者の感化をうけ、支配階級と永久無限の抗争をつゞけてゐた。

毎年一般同盟罷工が繰返された。來る年も來る年もポー谿谷地方の如きは、騒亂の爲に收穫と生産を荒らされてゐた。同じ祖國の下に生きてゐる國民の本分である共同一致の精神に反し、職業的社會主義者やサンデイカリストの組織者に煽動され、利害關係に基く慢性的闘争が絶えなかつた。排他的に自己の地位を維持し、救世主の出現を待望してゐる中産階級——此の階級に對する格闘は絶えなかつた。其の爲に國民の生活を敢然と改革する事が出来なかつた。

土中に豊かな財源を有せず、地域の半分には山嶽が重疊として蟠居してゐる伊太利の様な國では、大きな經濟的可能性はない。國民は闘争に専念し、階級は互に嚙み合ふ傾向を持つてゐるとしたならば、國民生活は近代人として發達す可きリズムを持つ譯にゆかぬ。

下劣な階級闘争から蟬脱し、憎悪や羨望を葬り去る必要があつた。歐洲大戦争の後を受けて、騷擾やストライキが續發し、其れに伴つて格闘が起り、死傷者を出すことが度々あつた。國民は支配階級に對する憎悪の念に満ち乍ら仕事に戻つた。農民と勃興する都市の産業との間には、たしかに誤解の悪氣流が流れてゐた。我々の生活は煽動政治家に左右されてゐた。誰も彼も群衆の

亂暴をこらえてゐるより仕方がなかつた。併し騒動が起る度に、亦其れから新しい事件が起り、一層困難な係争問題が擡頭するのは火を見るよりも明かであつた。

何をやつても自分達の責務を果す丈けの力の無かつた自由黨と民主黨は、伊太利國民の間に存する各階級の權利と義務を悉く了解し、是れを調和させる能力を缺いてゐた。是れを實現したのはファシズムである！

五年間階級協調の事業を推行了したので、經濟生活は改善され、延いては伊太利の政治生活、精神生活を革新するに成功した。私が茲に一言附言して置きたいのは、私が命令した紀律は、外部から強制した紀律ではないと云ふ點である。其れは先入觀念から飛び出して來たのではない。其れは團體や階級の利己的利益に屈服すると云ふ意味ではない。我々の主張する紀律は一つの理想を持つてゐる。一つの目的を持つてゐる——伊太利國の幸福を増進し、名を汚さないと云ふ目的。

ファシスト政府は、産業に對し、産業の未來を保する者に對して結んだ國際協定案を實行する爲め、社會的立法に大なる注意を拂つた。伊太利は歐洲諸國よりも進歩してゐると私は思ふ。八時間労働、強制保險、婦人と小兒労働に關する規定、保護政策、労働終了後の慰安、成人教育、結核の強制保險等に關する法律を制定した。此れに依つて見れば、労働の各部門に亘つて私が如

何に労働階級の味方をしたかと云ふ事が解る。最低賃銀の制定から雇傭繼續に至るまで、傷害保険から病患補償に至るまで養老扶助金から軍隊服務規定に至るまで、總て我經濟の共同利害を毀損せざる限り、私は是れを實現した。私は總ての男女に機會を與へて労働は苦痛な必要事ではなく人生の歡喜であると云ふ事を知らしめ度いと思つてゐる。然しかゝる複雑な計畫を樹てゝも、共同組織には遠く及ばない。けれども此の共同組織も、もう一つの大きな或物に比較すれば亦力が及ばない。共同組織、國家の労働を超越してファシズムがある。ファシズムは伊太利國民生活の調和者であると共に統治者である。

一九二三年、羅馬追撃を終つてから數ヶ月の後、私は八時間労働法を制定す可きことを固く主張した。ファシズムの立法政策に味方のゐることを認められた民衆は、國家サンデイカリズムに双手を擧げて賛成した。舊時の職業的サンデイカリズムに換ふるに、我々はファシストの共同制度を以てした。一九二三年十二月十九日の集會で、私は夫れを確言するの機會を得た。

「國內の平和を維持すると云ふ事が、政府の主要なる仕事である。政府は行爲を定むる明白なる綱領を持つてゐる。如何なる理由があつても、社會の秩序を亂すことは許さない。其れは政治的方面である。併し其の他に經濟的方面が残つてゐる。其れは共同一致である。其の他輸

出と云ふ様な問題がある。私は伊太利の産業を此の主義に基いて統制して行き度いと思ふ。今迄、産業は餘りに個人主義であつた。此の古い制度、此の舊い方法は投棄しなければならぬ。猶少し進んで私は言つた。

「人間の利害關係から生ずる抗争の中に、政府の權力は嚴然と構えてゐる。一般の幸福をはかると云ふ見地から物を見る正當な地位にあるのは、政府を措いて他にあり得ない。此の政府は人間を個々別々に取扱ふのではない、夫れは各人を支配するものである。政府は現在の國民のみならず、未來を代表する國民の法律意識である。政府は最高權力者として國民の生産力をはかる役目を持つてゐる。此等の原則な遵奉する政府は、各人が服従しなければならぬ權利を持つてゐる。其れを實行するのが政府の仕事である。政府は其れを實行するだらう。政府は國民の精神的物質的利益を保護する爲めに、其れを實行するだらう。漸次、從來の労働組織、労働組合は廢滅に歸した。我々は國家の共同觀念に向つて益々進んで往つた。私は労働者から一つの祭日換言すればメーデーを奪ひ去るのを欲しなかつた。

メーデーは社會主義者の奉ずる世界主義の印跡を有し、外國に端を發したものである。其處で私はメーデーの變りに、一つの愉快な光輝ある日を選んだ。其れは四月二十一日で羅馬の建國紀

念日である。羅馬は世界に立法制度を教へた都市である。羅馬法は今猶國民生活の關係を規律する主文である。労働祭日を祝賀するのに、是れ以上暗示に富んだ價值ある日を選定するのは、私には出来ない。私の作つた總ての政策、及びファシズムと組合が作成した總ての政策を並立せしむる爲、私は諮問機關である「大委員會」に命じて一つの文書を作成せしめた。是れは古今獨歩のもので、私は其れを「労働憲章」と呼ぶを敢て躊躇しない。

其れは三十項から成り、其の各項は根本的原理を包藏してゐる。最も重要な生産の必要に應じて、生産物の公平なる分配、爭議を起した場合の裁判所の判定、保護立法と云ふ様なことが生じて来る。

伊太利の各階級は此の文書を歡び迎へた。仰々しい自由主義や民主主義が跋扈してゐる態度不鮮明な國では、漠然とした希望を抱いてゐるにすぎない。そう云ふ曖昧な態度にくらべると、伊太利の労働長官は強國の名に恥ぢぬものである。斯うした法典はファシズムの手に依つて初めて編成されたのであつた。社會黨、又はサンデイカリズムの傘下に集まつてゐた古い型の人間は、大膽な新改革を見て愕然とした、而して周章狼狽した。今迄の傳説は滅びた。ファシズムは一つの階級の擁護者を以て満足するものでない、全國民間の關係の最高調整者である。「労働憲章」を

解釋する者が出て來た。而して世界各國の學者の注意を促した。其れは新たに構成されたファシスト國家の侮る可からざる支柱となつた。

労働憲章・社會的立法・労働長官の任命を見た論理的歸結として、共同組織を編成する必要が生れた。國家生産機關の總ての部門を、此の制度の中に集中しようと云ふのである。労働は其の種類が多數多様で範圍は廣く、肉體的なものとの別がある。是等の労働は平等に保護し、發達せしめなければならぬ。ファシスト國家の市民は、團體の法則を無視して反社會的權利を主張する利己的な人間ではない。ファシスト國家は共同觀念に基いて、國民を生産事業に従事せしめ、其れを推行するの義務を彼等に課するのである。

此の新たな觀念の理論を延長して、我々の代議制度が出來た。此の觀念に由れば、國民は其の生産的能力、労働力、思想を尺度にして價值が定るのである。二十一歳に達したから投票權を獲得すると云ふのではない！

かゝる共同組織の國家にあつては、總ての國民の活動が反映される。サンデイカリストの組織が新代議制度の一部を爲すは理の當然である。新しい政治的社會的實現の必要に應じて、國家政治代表の改造が行はれたのであつた。新しい政治の主腦者は、代議員たる可き者の能力、代表さ

る可き國民の數に従つて候補者を選定するのみならず、大ファシスト委員會の選定と價值判斷を參考にして候補者を定める。此のファシスト委員會は、最良、最堅、最眞の代表者を選び、最も老練な國民議會を作るのを目的としてゐる。

我々は廣汎、重要な幾多の問題を解決した。我國民精神を毒する擾亂は、殆んど年中行事になつてゐたが、我々は夫れを鎮壓した。我々は勞働にリズムを與へ、法律を制定し、保護を加へた。我々は喧嘩口論やストライキの爲に時を空費するやうな事はしなかつた。此等の紛擾は人間の精神を腐らせるのみならず、我經濟力を阻害した。我々は富者の奢侈を禁壓した。我々は力を養つた。我々は生産力としての勞働を尊重した。其處で我々は此等の分子を多數、立法部に送つた。此の立法部は伊太利國民の舵手である。

我々は資本家を追放しなかつた、露西亞共產黨の夢想してゐる様に。資本家は生産劇の中に出て來る重要な俳優だと我々は思つてゐる。

十三 途上に立つ

私の自叙傳の讀者は、是れで私の生涯の物語が終つたと思ふかも知れない。此の物語は是れで終つたのだと思つたとしたら、其れは間違ひである。人間は未だ四十五歳位で奮闘的生涯をやめられるものではない。

心安く、私事に亘つた「回想録」を、こと細やかに綴るのは、老境に這入つてから爐邊でなす可き仕事である。私は「回想録」に筆を染める意志はない。「回想録」は活動の生涯からすつかり隠退した者の心の記録である。火の様になつて東奔西走してゐる者にとり、其れはたいして重要ではない。

私は革命の指導者であり、三十九歳にして政府の首長となつた。私は自分の仕事を終了する處か、時によると未だ自分の仕事に着手してゐない様な氣持のすることがある。

今私の仕事は好轉しつゝある。今私は其の方面に向つて前進しつゝある。併し私はファシズムと言ふ建物の爲めに堅固な礎石を置いたのは本統だ。將來に備へる私の政策如何、私の最後の目的は何邊に存するかと訊ねる者が澤山ある。

此の質問に對する私の返答は斯うである。私は自分自身や自分の利益を兎や角思ひ煩ふ者ではない。私にとつて物品・名譽・頌德書・名前を歴史に列ねると云ふ決議なんか一顧の價もない。

私の目的は簡にして明である。私は伊太利をして偉大ならして、世界の尊敬を集め驚異の的とならしめたいのである。私は我國をして香の高い古い傳説の昔に歸らせ度いのである。私は國民共同一致の最高形式に向つて、發展せしめたいと云ふのが希望である。私は全國民をして永久に出來得る限り繁榮させ度いのである。私は我々の進歩を擁護する政治組織を創造し度いと念願してゐる。新しく生れ又新しく再生しつゝある伊太利國民を見んことを渴仰し、私は疲勞困憊することを知らない。私の全力を傾注し、私の有らゆる精力を發揮し、間斷無く、不眠不休で、私は國民に充分の機會を與へ度いと願つてゐる。私は他の國民の經驗を無視しない、併し私は我々自身の要素を捨てず、我々の傳統、伊太利國民の精力を以て建設するのである。私は我民衆の利益・希望・性行を深く研究した。私はより善き生活力と進歩に向つて躍進してゐるのである。私は其れを測定し、其れを指導する。我國は他の國に比して數十年、或は一世紀遅れてゐる。私はファシストの勇氣を持つて、此の遅れた期間を征服せんことを希ひ願ふてゐる。我軍隊は比類なき勢力を現す黨員である。私は青年を信頼する。彼等の精神物質の兩生活は、注意深い敏捷な智識と熱烈な心に指導されてゐる。反對黨でも正實でありさえすれば、私は其の人の忠告を傾聽する。不正直で虚言ばかり吐いてゐる反對黨、讒謗屋、國家否定者を私は輕蔑する。吹き來る風に向つ

て牝鷄の様にコッココッコと云ふ敗北者、永久に倒壊した建物の中に生き残つてゐる者は、往々にして慎みを失ひ沈黙を破る。

私は最も誠實な部下に對しても嚴格である。部下が極端に走つた場合には、私は是れに干渉する。私は民衆の心臓に近く身を寄せ、心臓の鼓動を聴く。私は民衆の徳操を知つてゐる。私は其れが純潔で健全であるや否やを探求してゐる。私は悪弊と墮落を敵にして戦ふだらう、而して其れを打倒するだらう。所謂「自由制度」は曾て保護政策の衣を着てゐるが、其れは國民を偽るものである。私は此の「自由制度」を打ち壊した。誤つた口先ばかりの理想主義でなしに、現實的理想主義を標榜するファシズムの新勢力に依つて、制度を作らなければならぬ。

空氣と光、力と精力は、伊太利の無窮の蒼空の中に輝き振動してゐる。今日伊太利國民は國民の理想、國家の理想に導かれて、其の目的に向ひ精進してゐる。此の國民は壯大なる新しい春の中に生きつゝある。私は是れから先、長い間伊太利の爲に働かねばならぬ。私は今四十五歳である、仕事や思想の上から云つても私は元氣旺盛である。私は自分の心の中にある利己心を撲滅した。私は最も忠實なる市民の様に、伊太利國民に奉待する。私自身は伊太利國民の從僕である。すべての伊太利人は私を理解し愛して呉れると想ふ。伊太利人は強固な意志を持ち、正しく虚心

坦懐に充分な信念を持つて指導して呉れる者のみを愛する。私は此の點を善く心得てゐる。
 其處で私が既に歩いて來た道を回想して見るのに、伊太利民族の創造物であるファシズムは、
 歴史的必要に應じて現れたものであり、亦將來も其の必要を満すであらう。故にファシズムは如
 何なる勢力を以てするも征服することは出來ない、而して其れは二十世紀の歴史に消すことの出
 來ない足跡を印するものである。」

昭和四年九月廿五日發行

ムツソリーニ自敘傳

定價 金壹圓五拾錢

著作者

岡田 忠一

發行者

東京市神田區今川小路一丁目四番地
 福岡 益雄

印刷者

東京市牛込區早稻田鶴卷町三六二番地
 關根 慶寬

印刷所

東京市牛込區早稻田鶴卷町三六二番地
 金星堂印刷所

發行所

東京市神田區今川小路一丁目

金星堂

電話九段二四九七番
 振替東京三三二八番

世界巨人叢書

支那國民政府主席	英首相	チエツコ大統領	土耳其古大統領	獨逸統領
蔣 介 石	ロイド・ヂョージ	トーマス・マサリツク	ケマルバシヤ	ヒンデンプルグ
古莊國雄著	岡田忠一著	岡田忠一著	近 刊	近 刊

四六判新裝定價各冊十五錢

財界巨人叢書一編 銅山王 古川市兵衛 岡田忠一著 五十錢價

金星堂學藝双書

荻原井泉水	川路柳虹	中村吉藏	武野藤介	白鳥省吾	千葉龜雄	中村星湖	前田晁	窪田空穂
俳句に入る道	詩を作る人へ	戯曲作法	現代表現の研究	童謡の作り方	新聞講座	評論講座	文章に入る道	短歌に入る道
一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇
上菊製	同	同	同	同	同	同	同	同
俳句の作法を初めとして、よき俳句の註釋、俳句の歴史、新傾向句の得失等を最も文學的に説く。	詩を作るにはどんな時にどんな風によむべきかを詳しく説く。名詩評釋と共によき入門書である。	戯曲は構成的綜合的にて多くの約束を有す。本書は特にそれ等舞臺約束技巧等の説明は詳細を極む	現代の日本の作家が、或る一つの事に、どんな表現を用ひてゐるかを比較研究した作文の好手引書	童謡大流行の今日、童謡を最も正道に進めんとして書かれたもの。名詩評釋、民謡の考察等あり。	新聞社の組織、新聞記者の心得、新聞文章の得失記者と記者上りの作家の話等趣味深い文字である	評論時代來る。論客たらんとする者は本書に就け本書は論文の書方を實地について講じたもの	文章を作るは易いやうでむづかしい。どんな心持で、どんな風に現はせばいゝかは本書に聞き給へ	短歌道の第一人者が古今の名歌を批評しながら作歌の心得を諄々として説きし得難き珍書である。

學藝・趣味

麻生 義譯	獨逸文學史	一〇六〇	上四六版	ゲーテ、ハイネ等の大詩人を生んだドイツ文學の成長は是非知るべきである著者は劍橋大學の教授
山内 封介	ロシヤ文學史	一〇六〇	同	ロシヤ古代の口碑文學から最近の共產派文學に至る迄を思想の變遷に重點を於て論じた貴重な研究
ラフカディオ・ヘルン 今東 光譯	文學入門	一五六〇	同	小泉八雲氏が嘗て帝大學生の爲めに講じたもので文學の概念から小説作法の詳細に及ぶ必讀の書
白鳥 省吾	詩の創作と鑑賞	一八八〇	同	簡單な詩の作法書ではない。著者が今までに書いた詩論の集録であつて、詩人必讀の書たるもの。
百田 宗治	詩の本	一八八〇	同	詩の作法、詩人の傳記、世界詩壇の流派分類、日本詩人の分類批評、名詩評釋、雜誌の出版手續等
下田 惟直	愛誦詩物語	一〇六〇	上菊製半	重に少女の爲に書かれた可憐な少女詩物語にして詩を作る人の心持や情景を手取るやうに描く。
松原 英次 譯	俳優術	二〇〇〇	上四六版	俳優としての心得、表現法、發聲法扮装法等多くの寫眞によつて懇切丁寧に説明した珍書である
女子教育研究會	現代婦人作文	一五八〇	同	婦人の作文は又特殊なる品格筆法を持つが本書は近代婦人の手に成る名文に依りてその作法を説く
永結 田喜林 健藏	アマチュア寫眞術	品切	上菊製半	題名の示すが如く本書は素人寫眞家の爲に特に懇切丁寧に寫眞術全般の解説をしたものである。

太田 三郎	武藏野の草こ人	品切	上四六版	滅び行く武藏野の跡を追ふて、繪に文に、その名残りを止めたエッセの典型的なるものの集録だ。
同 上	新日本畫の描方	品切	同	新しい日本畫！日本畫に洋畫の描法を加味して清新な畫法を親切に説く。参考寫眞數十葉あり。
清澤 列	モダンガール	一三六〇	同	世界各國のモダンガールの型を紹介すると共に彼女等の出現に經濟的價值を與へた新しき研究。
成澤 玲川	新聞戰線	一三六〇	同	近代的産物たる新聞を作るまでには如何なる苦心を要するかの内幕を紹介した興味ある隨筆である
古莊 國雄	第一線に立つ女性	一五六〇	同	美人、文學、探險、運動、美術、政治、婦人運動等各方面の世界第一線の婦人を紹介論評せる書だ
片岡 鐵兵	モダンの研究	一三六〇	同	文壇の新人の眼に寫つたモダンガールを初め、婦人の姿態美、戀愛、モダンボーイの研究まで及ぶ
百瀬 晋	趣味コクテール	二〇八〇	同	コクテールは近時世界的流行を示してゐる。本書はその起源と親切な調合法とを紹介したもの。
川島 清	拳闘	一八八〇	同	拳闘はジャズ、ダンス等と共に現代の流行だ。之を行ふ者観る者も皆本書に就いて流行に後れざれ
阿刀田 令造	西洋史概説	品切	同	著者は仙臺高等學校で歴史科の教鞭を執る人にして。多年の研究と實地とに基いて書かれた參考書
中村 莊太郎	ロシヤ語講話	二〇八〇	上四六版	ロシヤは文藝的にも思想的にも大いに研究すべき國だ。故に本書に就きて其國語を修められん事を

中田山花袋	溫泉週遊	三〇二〇	上四六判	日本は溫泉の國である。幾百あるか知れない。本書はその全部を紹介し百餘枚の繪を添へた美本。日光を見ずして結構といふな、本書を見ずして日光を語るな。本書は實に良き日光全山の案内書だ
小川貢	日光雜記	一二〇六〇	同	日本は四圍皆海である。船の構造、造船順序、航海等國民として心得おくべき事を詳細に解ける書
小杉花影	船の知識	一七〇六〇	同	近代文明の發達は全て發明による。エヂソンを初め全ての發明者の苦心、動機等を簡結に紹介す。
同	大發明物語	一七〇六〇	同	世界の文明は日進月歩して行く。本書は文物に生物に道徳に宗教に進化の跡を詳しく探れるもの。
同	世界進化物語	一七〇六〇	同	世界には珍らしい生物や山や河や建物や人種や橋やがある本書を讀めば居ながらそれ等を見られる
同	世界見學	一七〇六〇	同	世界各國の野蠻人の面白い風俗習慣を紹介し、多くの寫眞を入れ丁度蠻地にゐる心地あらしめる。
同	蠻人物語	一七〇六〇	同	支那の南方に起つて黒戰苦闘の結果遂に全支を支配するに至れる風雲兒の面目は本書に躍如たり。
古莊國雄	蔣介石石	五〇六〇	同	トラムプは家庭に最も廣く用ひられる娛樂機關だが本書はその獨り占ひや手品の種明しをしたもの
志賀哲藏	トラムプ占ひと奇術	五〇六〇	上菊製	大妻技藝學校の校長たる著者が教育上多年の經驗を重ねた結果、懇切丁寧なこの書を著された。
大妻コタカ	お細工物新書	二〇八〇	上四六判	

社 會 問 題

ホルレンダア	社會思想史	一五〇六〇	上四六判	社會主義的思想の淵源から書起して近代思想の批評に及んだ獨逸新カント派の重鎮の手に成るもの
山内封介	ヤロシ革命運動史 卷五	各七〇六〇	假四六判	古くから繰り返されたロシアの革命運動から一九一七年に至るまでを思想的歴史的に書いた研究書
山内封介	レーニン	品切	上四六判	近代の英傑レーニンの傳記であつて、何等の主義にもよらず純客觀的に歴史的に記述したものだ。
カウツキイ	無産階級革命とその綱領	二八〇二〇	同	暴力革命を主張するレーニンの戦術が果して眞のマルクス主義か否かを検討し眞の革命戦術を説く
高橋正男	刊未 大杉榮遺稿	三〇二〇	同	風雲見大杉の遺稿で、曾て何等の本にも掲載されなかつたもの。彼の全集はこの一巻で完全となる
安谷寛一	刊未 大杉榮遺稿	三〇二〇	同	サンヂカリズムとアナキズムを混同し或は敵視する者ある時に當り本書に就きてその眞を知り給へ
マラスタ	リズムとアナキズム	四〇六〇	假四六判	マルクス思想の本源たる共産黨宣言は果して彼の創意なりや本書はその種本を明るみに酒せしもの
チエルケツフ	共産黨宣言の種本	五〇六〇	同	日常の闘争——此の中にこそ眞の社會革命が秘められてゐるのだ。本書は之を説いて餘蘊なきもの
新井松太郎	パンの爲の闘争	五〇六〇	同	暴力革命の倫理的考察にしてサンヂカリズムの祖たるソレルの著書には又教へらるゝ所多からん。
ソノ	暴力の倫理	七〇六〇	同	

サシ・シモン 兼谷美英譯	新基督教論	三五	四六版 假製	近代社會思想の鼻祖たるサン・シモンが基督教を こき下ろして眞の無産者の宗教を押し立てしもの。
ビエル・ラムス 土方定一譯	マルキシズムの謬論	五〇	同	マルクス流行の折柄マルクスに一も二もなく酔は されず一度は本書に就きて其謬論を検討せられよ
クロボトキン 服部豊譯	近代とアナキズム	七〇	同	科學萬能の現代に於て科學的なるものの眞體を説 きアナキズムをそれに擬したる尊き文獻である。
クロボトキン 古田徳次郎譯	國家論	五〇	同	無政府共產主義の鼻祖たるクロボトキンが太古か ら現代迄の國家の發生を論じた痛烈無比のもの。
リーブクネヒト 岡田忠一譯	非軍國主義論	五〇	同	リーブクネヒトは獨逸革命の父だ。熱烈火の如き 彼の演説は人間の肺腑を貫かずにはおかない。

古莊國雄著 蔣介石

四六版假裝 定價五十錢
百五十頁 送料六錢

支那は謎の國である。然し支那は我國の隣國にしてその一舉手一投足は常に我
國に影響する。之を謎の國として放任することは出来ない。殊に近時支那革命
以後は國交上看過すべからざる重大事となつた。故に我國民は國民外交の意氣
を以て舉國一致之に當らなければならぬ。それには先づ第一に革命支那政府の
本體を知らなければならぬ。之を知らんとせば先づその總帥たる蔣介石を知ら
なければならぬ。最近の彼の活躍は今や世界の視聽を一身に集めつゝある。一
士官より身を起して青雲に乗ぜし一代の風雲兒が如何なる理想と實力を抱藏せ
るか。は本書によつて初めて明がとなるであらう。將にこれ國民必讀の書。

社會文藝双書

マルセルマルチネ 佐々木孝丸譯	夜	五〇	四六版 假製	トロツキイが激賞せし戯曲にして歐洲大戦後の獨 逸革命に材を取り悲痛壯烈を極むる眞の無産者劇
ゲオルゲグロス 麻生義譯	藝術の危機	五〇	同	プロレタリア漫畫家として有名なグロスの美術論 其他未來の劇場論等を集めた尊き無産藝術論集。
ルナチャルスキー 千田是也譯	解放されたドンキホーテ	五〇	同	センチメンタリスト或は人道主義者たるドンキホ ーテの哀れにも悲しき姿を嘲罵せる名戯曲である
イワノフ 黒田辰男譯	装甲列車	五〇	同	バルチザンの出没自在なる戦闘振りを描ける小説 にして日本軍、支那人等を描寫して巧妙を極む。
シンクレア 佐野碩譯	プリンスハアゲン	五〇	同	資本主義經濟組織を象徴し、黄金萬能の威力も終 には無産者の力に壓倒せらるゝを諷せる戯曲だ。
ウィットホーゲル 辻恒彦譯	誰が一番馬鹿だ	五〇	同	誰が一番馬鹿だらうと思つて世界中の馬鹿を探し て廻つたらそれは結局資本家だつたといふ滑稽劇
レフ・トルンツ 上脇進譯	法の外に	五〇	同	若くして死んだ天才詩人の無政府主義思想を盛つ た、テンポ速く快瀾極まる表現派風の戯曲である
イレツキイ 工藤信譯	鼠陥し	五〇	同	ブルジョア社會の政治組織を諷刺した劇である。 附録に無政府主義者の偽らざる現代ロシア觀あり
アレキセイ・ガン 黒田辰男譯	構成主義藝術論	五〇	同	構成主義の言葉は夙に知られてゐるが、その理論 は之を以て最初の紹介とする。是非一讀せられよ

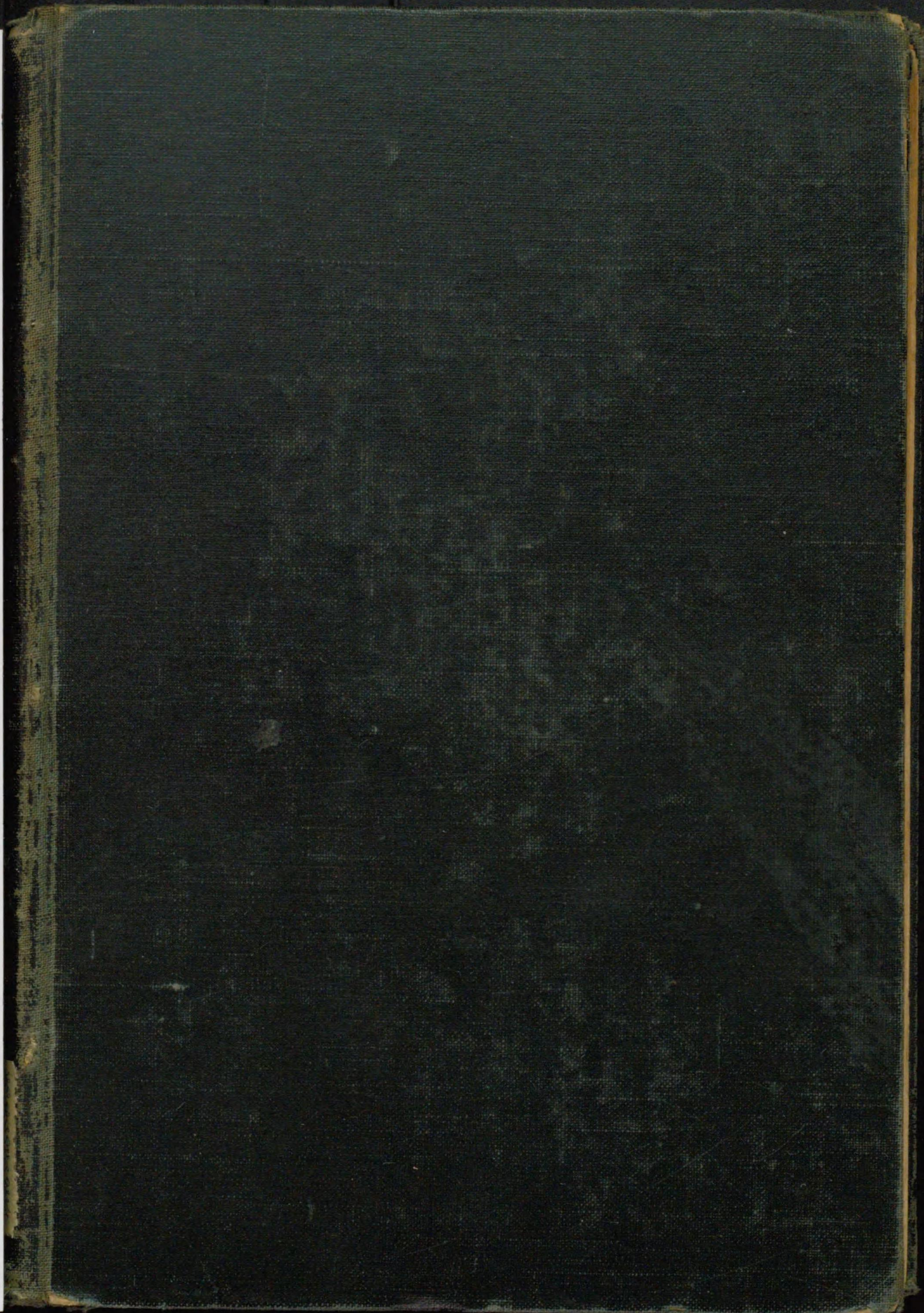
大杉榮 遺稿

安谷寛一編
定送料
三十圓

白色テロの暴威は愈々白日下に公然と行はるゝに至つた。近くは無産黨代議士山本宣治氏が暴漢の兇刃に斃れたが、その先關東大地震の際には大杉榮氏が憲兵大尉甘粕の毒刃に屠られた。ことは未だ世人の記憶に新しいであらう。世は正に恐怖時代に化せんとしつゝある。本書は此の我が社會運動史上特筆すべき大杉氏の遺稿にして未だ會て如何なる書物にも掲載せられざりしもののみを集録せるものである、編中「非軍備主義論」の如きは熱烈嚴をも動かすの概あり、當局の忌諱に觸れて今日まで絶對に發表を許されざりしものである。以て本書の價值の一半を窺知することが出來よう。

上ダニレフスキイ 脇進譯	中政治犯十數人 島信譯	木シンクレンア 村生死譯	石川ルポ 三四郎譯	山ステプニアク 内房吉譯
流血の日曜日	ロシヤの牢獄	拜金藝術	惡指導者	新しき改宗
五六〇	五六〇	五六〇	五六〇	五六〇
同	同	同	同	假四六版 製
發賣禁止 現露作家の作つた最も宣傳的な労働者 クラブ劇(青服劇)五ツを收めてある。	勞農ロシヤにも牢獄はある。然も思想犯に加へる 慘虐は如何? 本書はそれ等犯人の告白書である	プロレタリアの見地から全ての藝術を批判しプロ 文學の行くべき道を明確に教へた辛辣な論文集。	パライコンミュンから取材し、強權的惡指導者を 嘲罵した所のサラ・ベルナールに書卸した戯曲。	人道的富豪が、子への愛や罪への自覺等から漸次 に社會思想に眼覺めて來る經路を描ける五幕もの

556
383

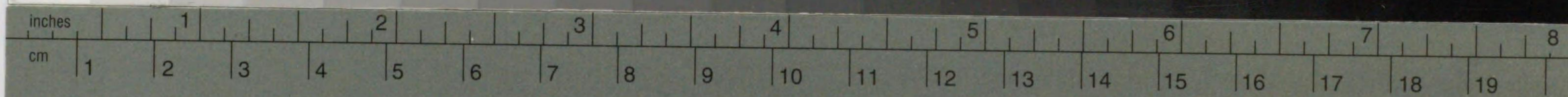


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

